

青森県における縄文時代の装身具概要

鈴木 克彦

はじめに

集成にあたり、本来は装身具の定義から検討して取り掛かる必要があったが、本集成を単年度で行うという事情により装身具の可能性のあるものまでを含めて孔の空いた遺物は全部収集することとし、それらの中から選択して掲載することにした。その際、偏りが生じないようにしたが、逆にこれも装身具と言えるのか、という類まで網羅した。本集成には、2780点を掲載した。

定義問題は集成を行う際の両刃の剣であり、定義に対する異論が生じた場合に集成自体が恣意的なものと受け取られる恐れがある。実際、石器を含めた各種の石製品、用途不明遺物、信仰祭祀儀礼遺物、未成品、武器武具付属品などとの判断が難しいものもある。

本集成により、青森県から出土している質量共に優れた縄文時代の装身具の全容を明らかにすることができた。それらの資料的意義は高いので、幾つか考古学上の問題点を明らかにしておきたい。

2 装身具概要（時期別の特徴）

青森県で最も古い類例は、縄文時代早期前葉貝殻文土器期の八戸市根城跡、櫛引遺跡から出土している土製品（図版 26-1Q 28-20,21）である。装身具か否かの判断が難しいものである。次いで、後葉の八戸市赤御堂貝塚から有孔石製品（図版 15-19）、角製玉（図版 31-7）、長七谷地貝塚から青森県最古のけつ状耳飾（図版 5-1）、ヘアピン類（図版 30）が出土している。

前期では、青森市三内丸山遺跡に円筒下層 a,b式期の玦状耳飾（図版 33-14,15）、下層 d 式期の玦状耳飾（図版 33-19）、小玉（図版 41-101）、或いは骨角製の牙玉類（図版 51）ほか（図版 43-28）が出土している。前期の代表的な装身具である玦状耳飾に、むつ市瀬野遺跡で円筒下層 d 式～上層 a 式期（図版 1-3,4）、鯨ヶ沢町鳴沢遺跡で円筒下層 d 2式期（図版 33-6）がある。また厳密には装身具と言いが、平川市大面遺跡に岩版に紐孔の空いたもの（図版 43-26,27）が出土している。

中期では、八戸市熊ノ林遺跡に円筒上層 a式期の玦状耳飾（図版 5-7）、深浦町津山遺跡に円筒上層 a 式期（図版 33-7）、八戸市西長根遺跡に大木 8 b 式平行期（図版 5-6）、八戸市笹ノ沢遺跡において土坑内などに円筒上層 a式期の翡翠（図版 7-10）、玉髓（図版 20-8）、軟玉製（図版 7-20）、滑石製（図版 20-7）の大珠が出土している。後葉には、三内丸山遺跡に榎林式期の根付形大珠（図版 34）が出土している。

中期後半期に石製装飾遺物が急増し、後期前葉にも土製装飾遺物が多く出土するが、階上町野場 5 遺跡の中期末葉の滑車形（図版 27）は、無孔の例もあり装身具かどうか検討する必要がある。

後期では、前葉に五戸町薬師前遺跡から人骨と共に貝製胸飾（図版 32）、黒石市一ノ渡遺跡から翡翠大珠（図版 35-4,5）が出土している。土製の大型滑車形耳飾（図版 26-5～9）、大型腕飾（図版 50-27～32）もある。八戸市風張遺跡の後葉の土製縄文勾玉（図版 22-3,4）は、北海道に類例があるが、本州での初見だと思う。

晩期では、むつ市二枚橋遺跡（図版 2）、大洞 C₁、C₂ 式期の六ヶ所村上尾駟（1）遺跡（図版 9～12）、大洞 C₂、A 式期の外ヶ浜町宇鉄遺跡（図版 37,38）、青森市朝日山遺跡（図版 39）、つがる市亀ヶ岡遺跡（図版 40）に翡翠製を含む縄文勾玉、丸玉、小玉が多数出土している。また、土製縄文勾玉（図版 46）が宇鉄遺跡から出土している。このような連珠にする用法が、青森県以北の特徴である。

その他、土製の耳飾（図版 24・25）、腰飾（図版 27-22,23,28-1～3,50-15）がある。木製では、八戸市是川中居遺跡から漆塗りの櫛、耳飾、腕輪（図版 29）が出土している。

3 まとめと問題点

青森県の縄文時代の装身具は、多量で多様性がある。また、南部地域と津軽地域で地域差がある。形が特徴的な土製分銅形の小玉、耳栓（図版 2-35,38,40～44,48）を出土する下北半島地域は、同じ類例を出土する津軽地域（図版 47-1～27）に関連すると思われる。縄文時代の代表的な装身具である翡翠製縄文勾玉は、津軽地域を特徴づける貴石である。

青森県における珧状耳飾の特徴は、円形と三角形の類型が多いことである。三内丸山遺跡で円形が下層 a, b 式期、三角形が熊ノ林遺跡で上層 a 式期とされている。上限は長七谷地貝塚の類例によって早期末葉、下限は西長根遺跡の大木 8 b 式併行期である。この結果、早期末葉の丸みを帯びた円形 前期中葉の扁平な円形 前期末葉から中期初頭の三角形 中期中葉の長方形の順に変遷すると考えられる。

問題は、これが果たして定説化しているピアスかどうかである。人骨頭部付近から出土する傾向があっても、紐に吊り下げて垂れ飾りとして使われたことも考えられる。事実上、三角形珧状耳飾をピアスとして用いることは、切れ目の幅などから不可能だと考える。

同じく、土製滑車形耳飾とされている類例（図版 3,26,）には直径 10センチを超えているものがあり、耳たぶに孔を空けてはめ込むことは不可能であろうし、直ぐ外れるだろうから、耳飾とすることができないと考える。併せて、分厚い土製の滑車形（図版 27）についても名称や用途を検討する必要がある。

この耳飾りについては、北日本ではほとんど研究されていない。耳飾としては重くて実用性が希薄な石製の類例（46-1,2）は、全国的にみても珍しいものである。その一方で、木胎の漆塗り（図版 29-9）がある。津軽地域に多く見られる型どりではないかと疑いたくなる小型な滑車形耳飾（図版 49-20～41,他）は、華奢で薄い作りで壊れやすいものであり、長時間の着用は無理であろう。両端の直径が違うもの、或いは耳栓など、青森県だけでも従来耳飾ではないかと同定されてきた遺物は、実に多様なものであり、分類、名称、用途などを含めて抜本的に検討されなければならないと考える。

中期の大型な翡翠製大珠について、青森県及び岩手、秋田県以北の北日本の特徴は荒谷型の根付形である。近年、それが三内丸山遺跡などで製作されている可能性がでてきた。しかし、その時期は発掘当時担当者から最も近い所から出土した土器が榎林式だと聞いた以外、一切土器型式に対応した根拠が示されていないため正確な時期が不明であった。ところが、近年笹ノ沢遺跡において円筒上層 a 式期とされる滑石製根付形大珠等（図版 7-10,20-7他）が発見された。その中の 7-10は、本県最古の翡翠製装身具、日本でも五指に入る古さである。そこまで遡るとは想定外の古さで、石材、形態にも多様性がある。しかも、本県最古の軟玉が使われている。軟玉問題は、石材の同定が考古学者が行う

ことができないために等閑視されているが、幾つか類例（図版 41-120）があり、滑石などと共に石材産地と製作地を追求したいものである。装身具に多様な石材が使われていることから、かねてから予測していた非翡翠製大珠（図版 45-13～15）の存在や軽石製などの疑似大珠の存在（図版 21-1～5）が現実味を帯びてきたように思われる。

翡翠製縄文勾玉は、本州では青森県が北陸地方よりも多く出土している。朝日山遺跡の一遺跡での25点という出土量も突出している。津軽地域に多いということは上述した。それらの類例の大半が、頭部を中心に体部上半部に刻み目を持つものである。朝日山、上尾駸（1）遺跡などのように、墓から丸玉、小玉と一緒に出土することが多く、連珠で用いられていたと思われる。

問題はその初現で、中期末葉の大木 10式土器期とされる泉山遺跡の翡翠製の類例（図版 8-19）は再検討される必要があるが、後期後葉の翡翠製の類例（図版 8-13）は異形であり、それ以外では晩期以前の翡翠製の定型縄文勾玉は知られていない。晩期に出土する翡翠製定型縄文勾玉は、大洞BC, C, 式期に集中するように思われる。因みに、泉山遺跡の翡翠製獣形縄文勾玉（図版 8-22）は、縄文時代最大のものである可能性が高い。

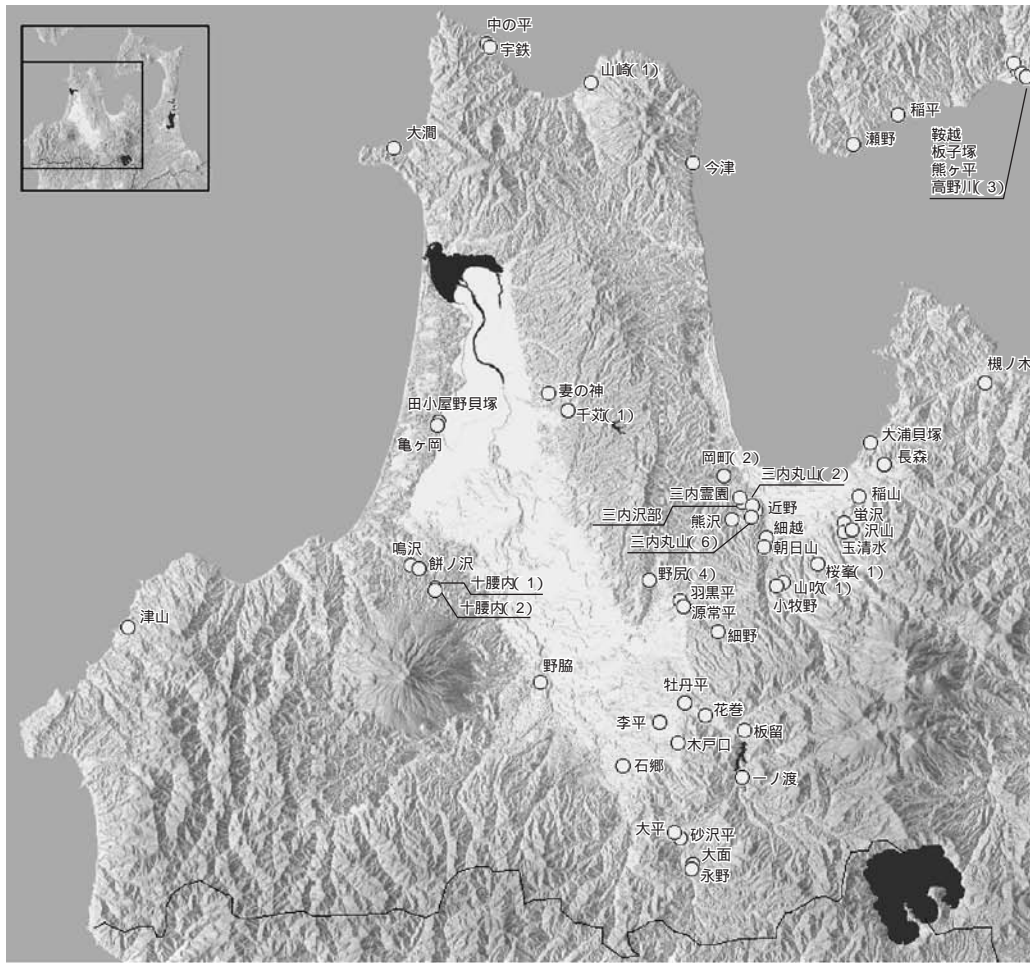
土製の縄文勾玉の中で後期と思われる八戸市風張遺跡の文様が施される類例（図版 22-3,4）は、北海道に存在する。北海道に多く見られるという点では、菊玉とも蜜柑玉とも言う刻み目の入った土製の小玉もまた北海道に類例が多い。

緑色凝灰岩製の丸玉、小玉（図版 40）は、確実に在地生産である。東北地方最大の玉作り遺跡は、工具、未成品が数多出土しているつがる市亀ヶ岡遺跡である。ただこの遺跡で緑色凝灰岩製の縄文勾玉が見当たらないことと、翡翠製の玉類を確実に製作しているかどうかをまだ実証できないことは問題である。

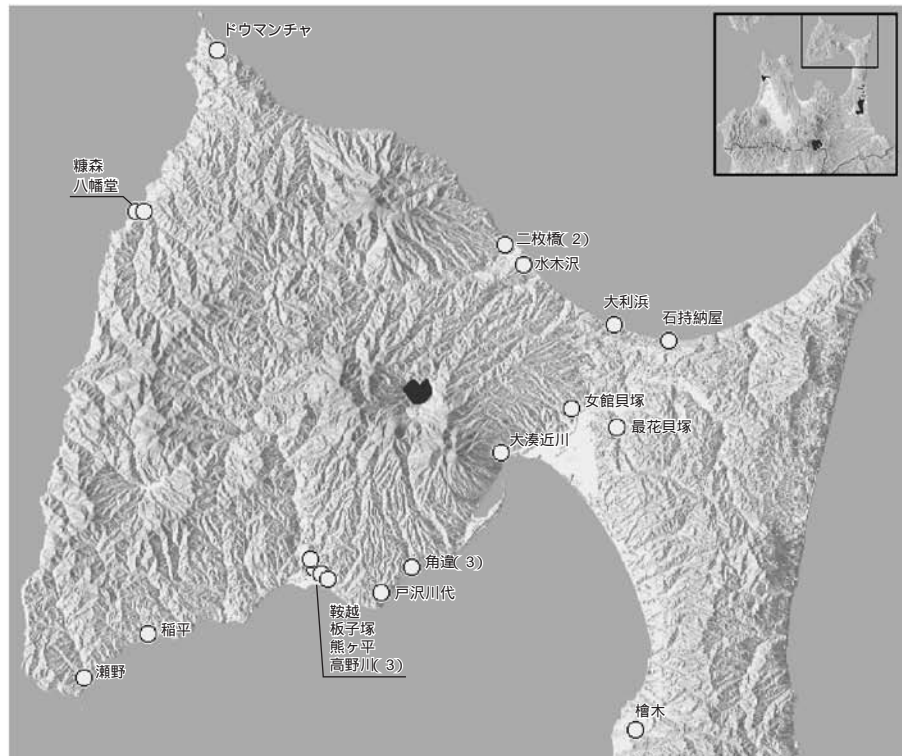
次に、珍しいものを幾つか紹介する。土製の指輪形（図版 27-21）は、石製なら北陸に出土しているが、土製品が他にあるかは不明である。「の」字形（図版 13-7）に類似するもの（図版 42-4）がある。玉斧は2点ある（図版 2-16,13-8）。人形には、石製と土製がある（図版 13-9,28-14）。土鈴（図版 28-4～13）という名称が相応しいかどうか問題があるが、空洞の中に小石の入った是川中居遺跡の類例（13）により掲載したが、滝端遺跡の類例（4～11）は中実、弥栄平遺跡の類例（12）は中空である。稀少材の類例には、琥珀玉（図版 13-4～6）、水晶製（図版 13-3）、大理石製（図版 33-14,15）、化石（図版 31-12）などがある。

名称が付いていないものがある。菱形の類例には、石製と骨製がある（図版 14-2～11,30-22）。最近、装身具であるか否かが明確にできないものを一括して有孔石製品と呼ぶ傾向がある。

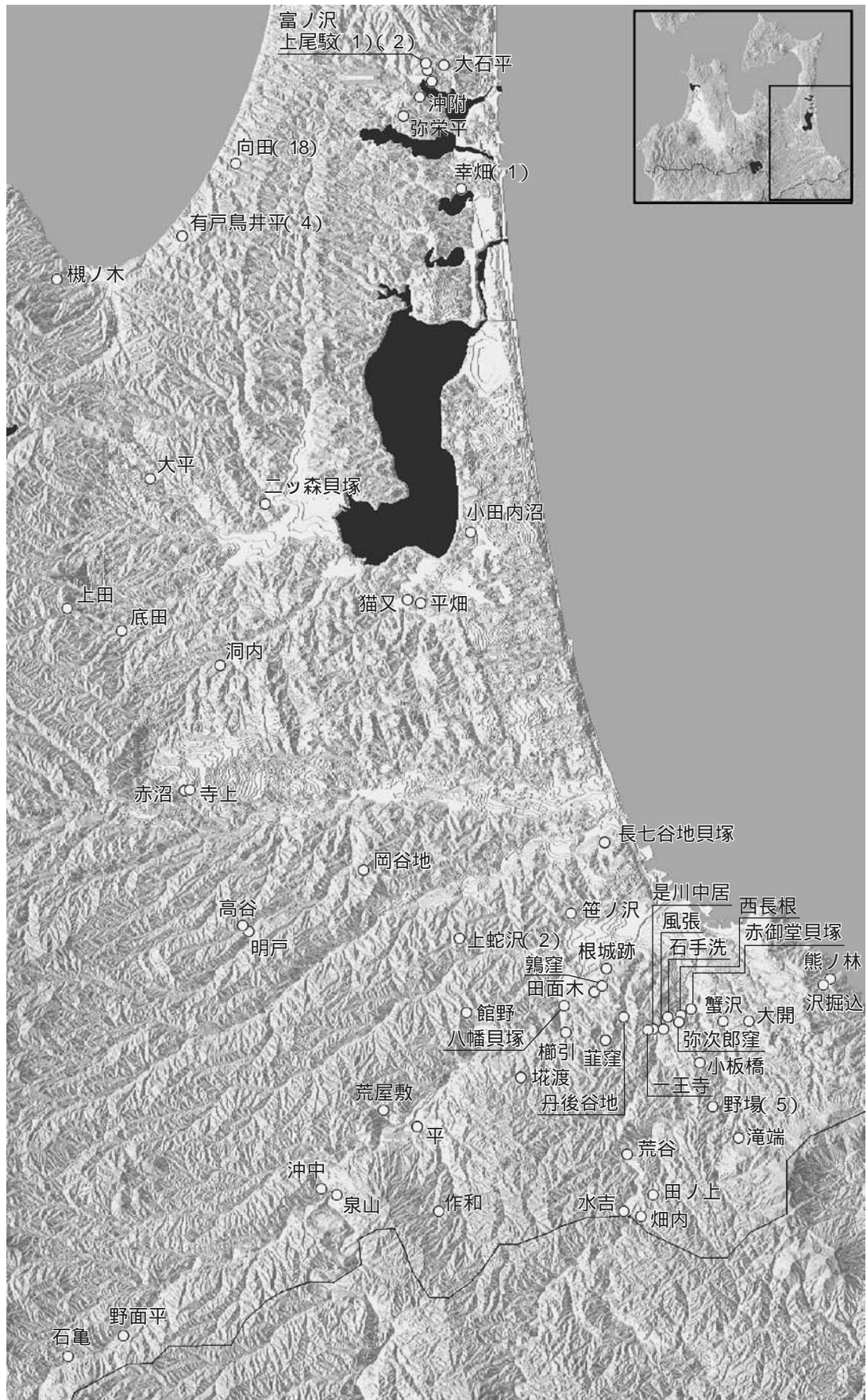
全体を通観してみて分類、名称、観察表の有無、縮尺の不統一さなどの問題点もあるが、発掘で出土したにも係わらず時期を特定できないものが多いことが最大の問題点であった。今や、縄文時代の装身具は、中期とか後期などと同定するレベルでさえ通用せず土器型式に対応した時期の把握が求められている。



第1図 津軽地域の資料掲載遺跡(縄文時代)



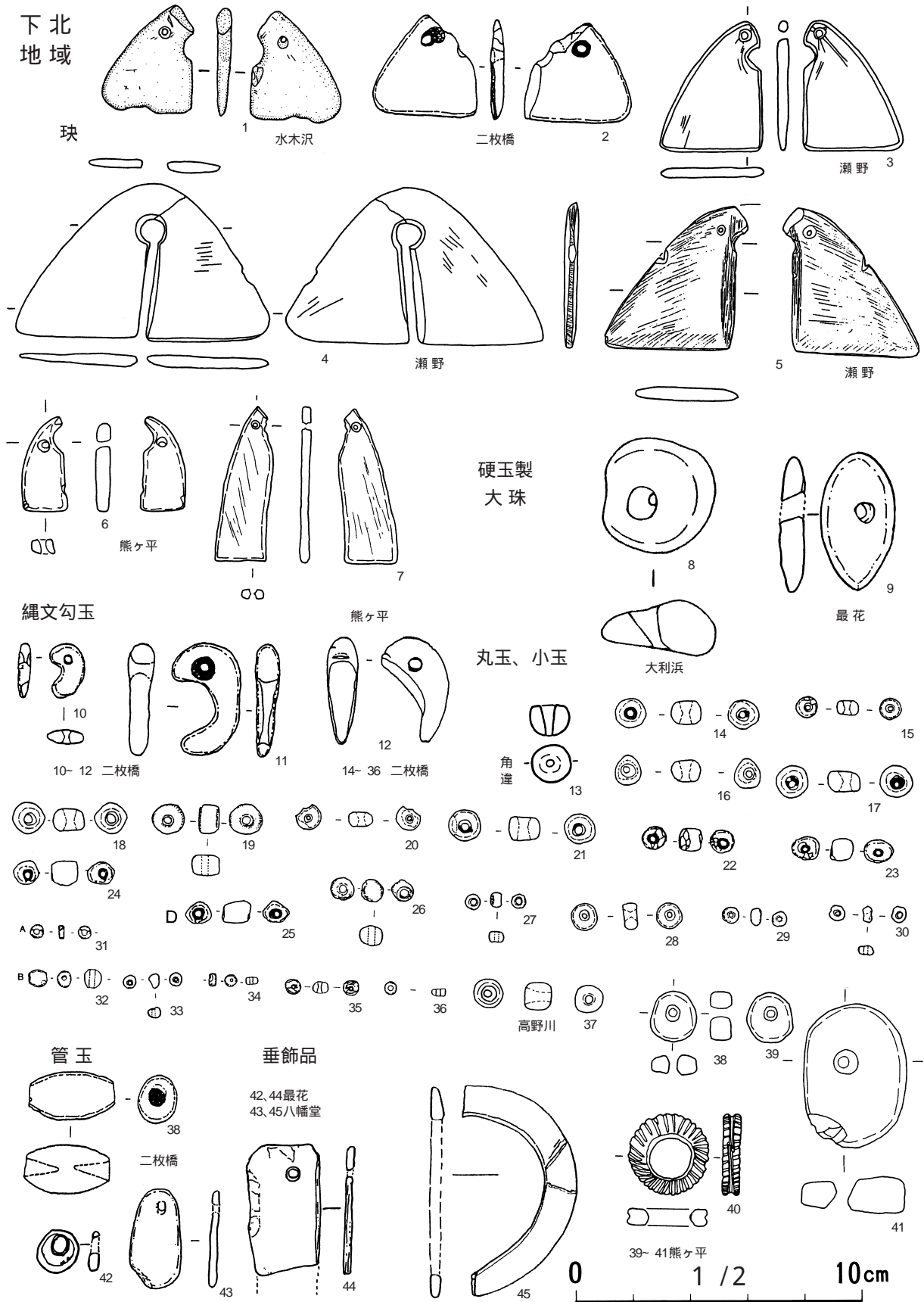
第2図 下北地域の資料掲載遺跡(縄文時代)



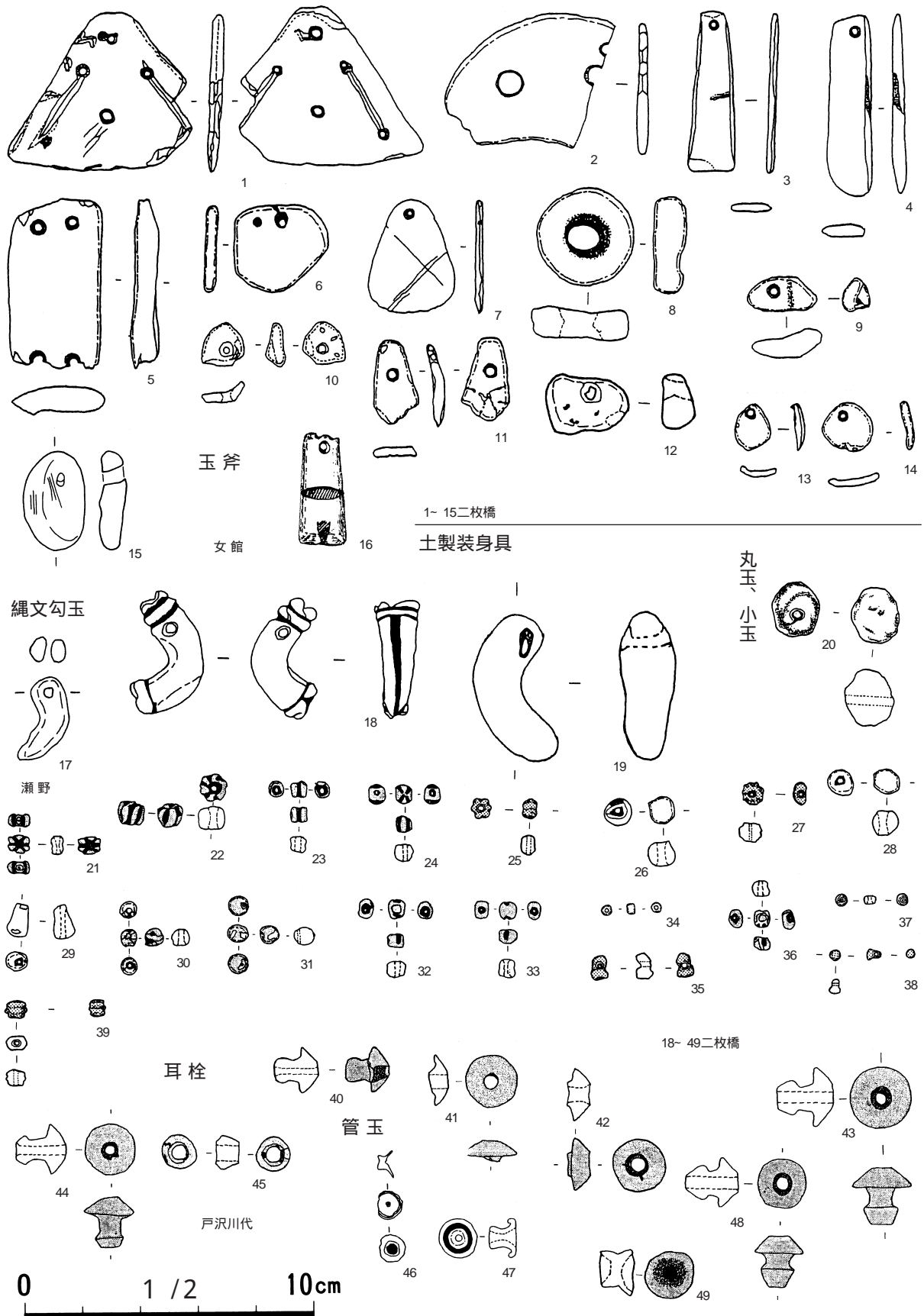
第3図 南部地域の資料掲載遺跡

青森県における装身具の集成

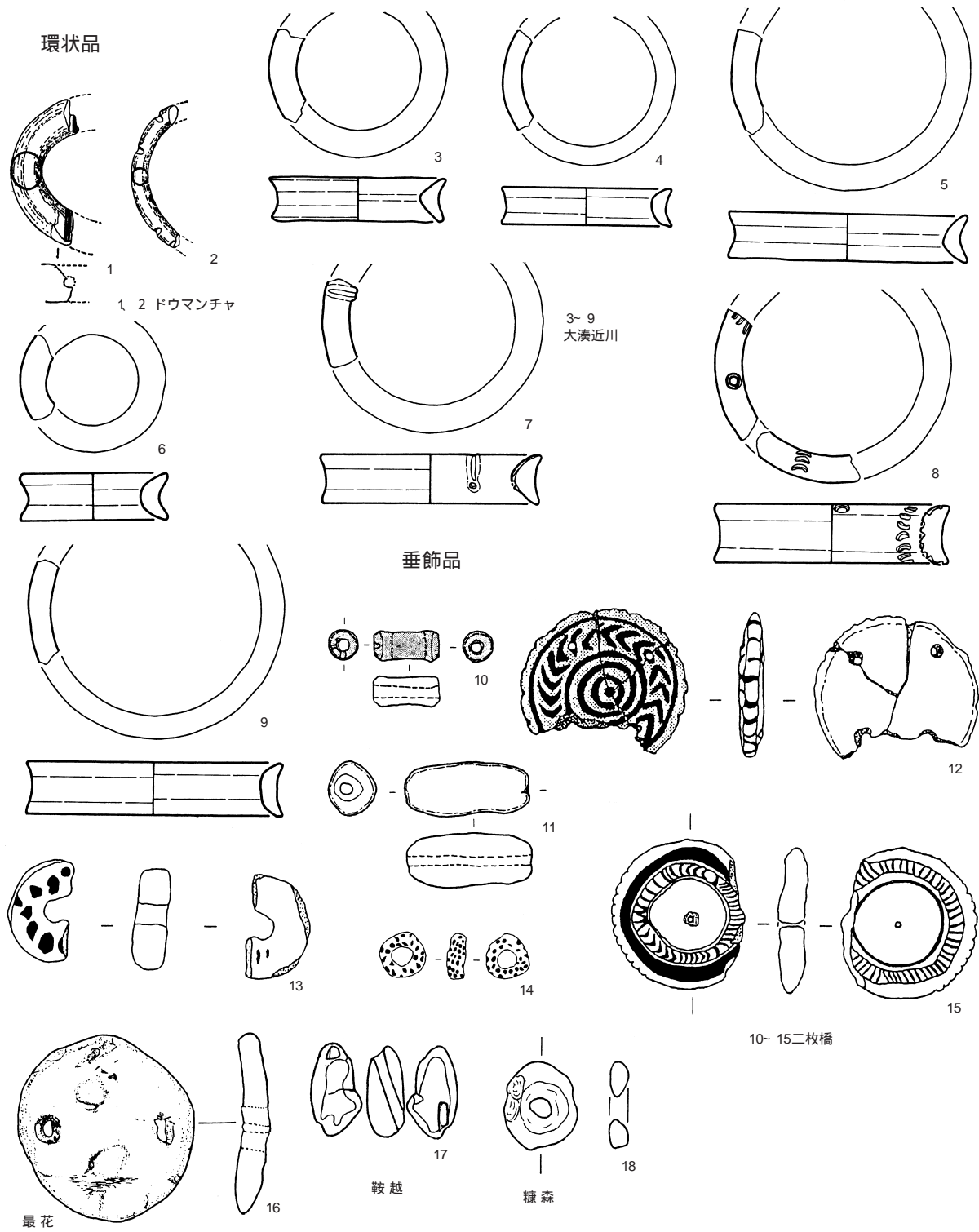
縄文時代編



図版 1 (下北地域 1)



図版 2 (下北地域 2)

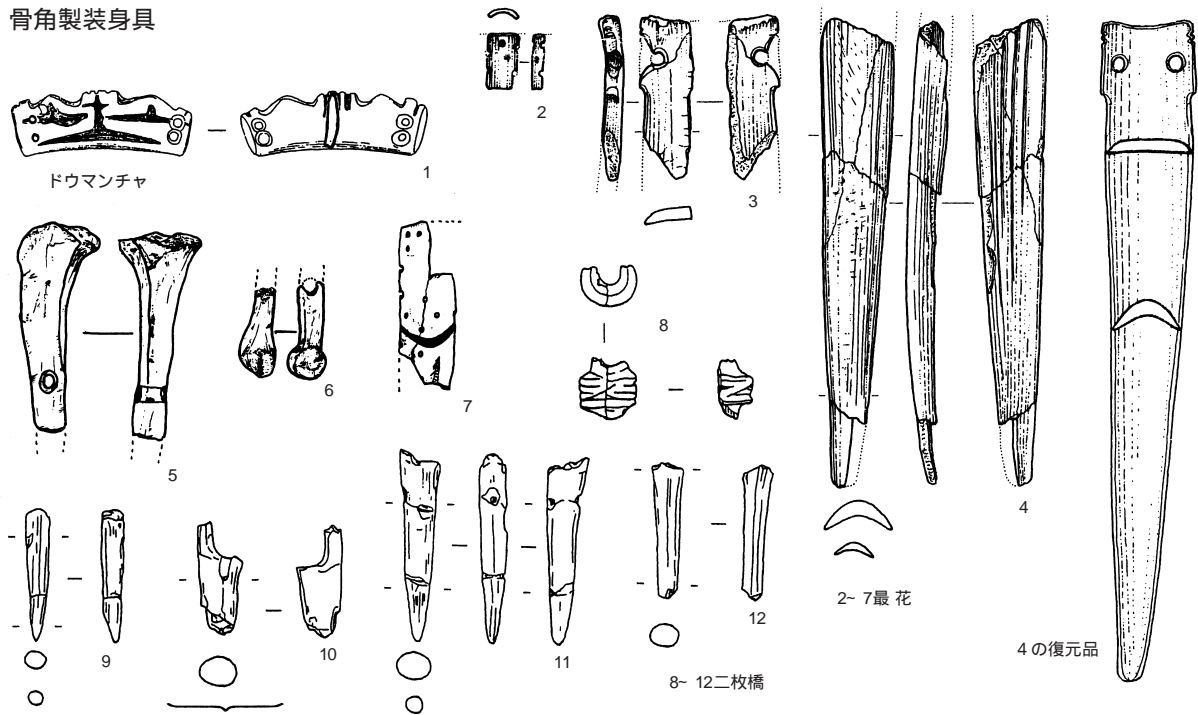
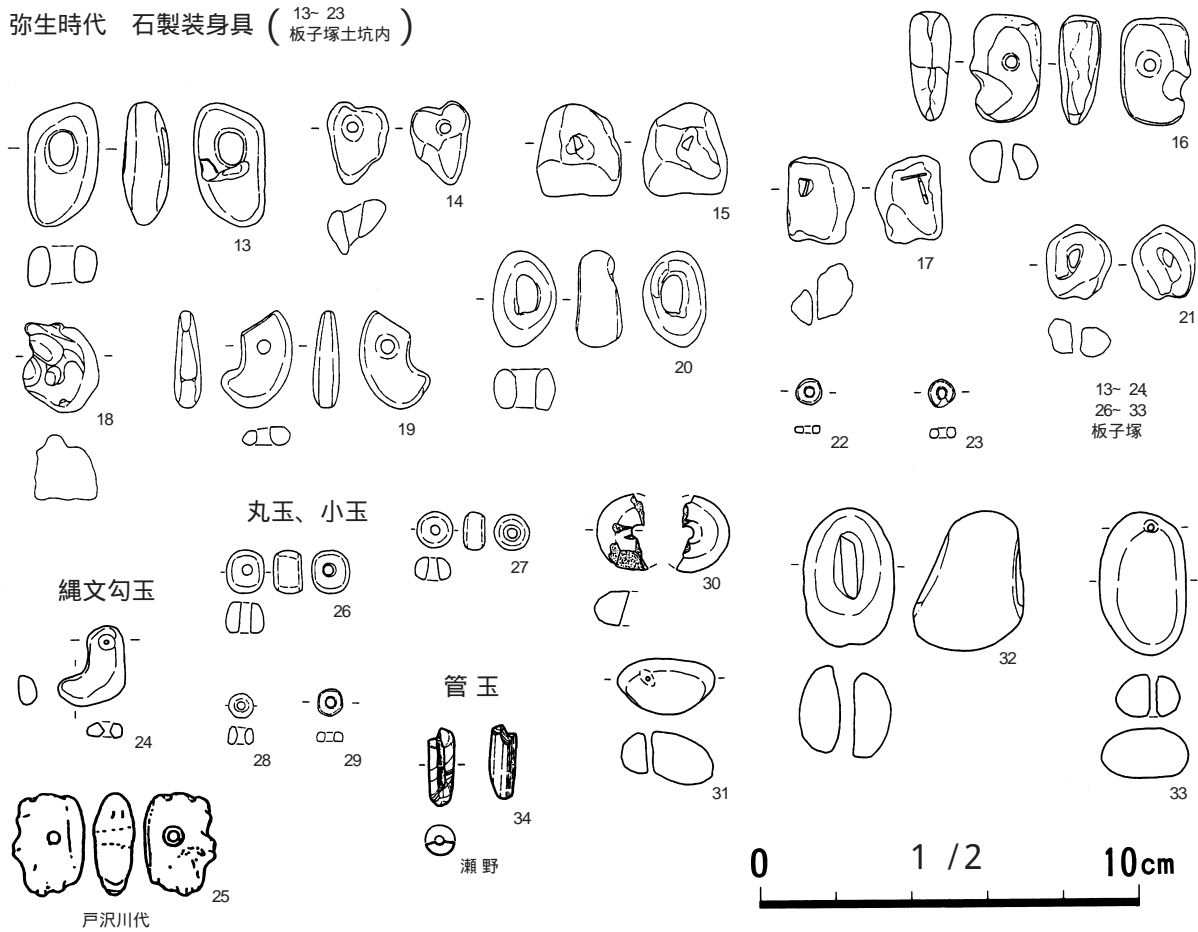


弥生時代 土製(装身具)

0 1 / 2 10cm

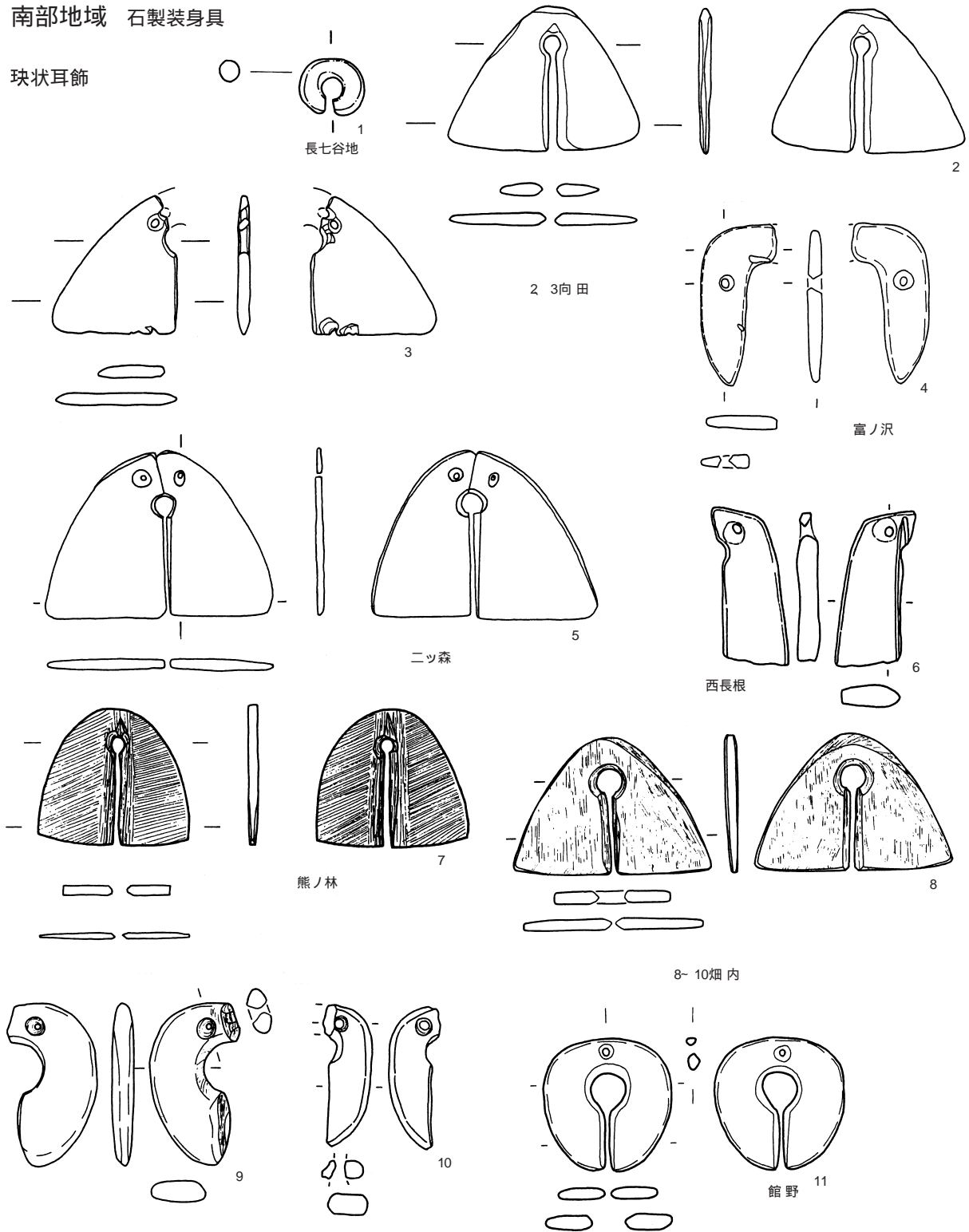
図版 3 (下北地域 3)

骨角製装身具

弥生時代 石製装身具 (13~ 23
板子塚土坑内)

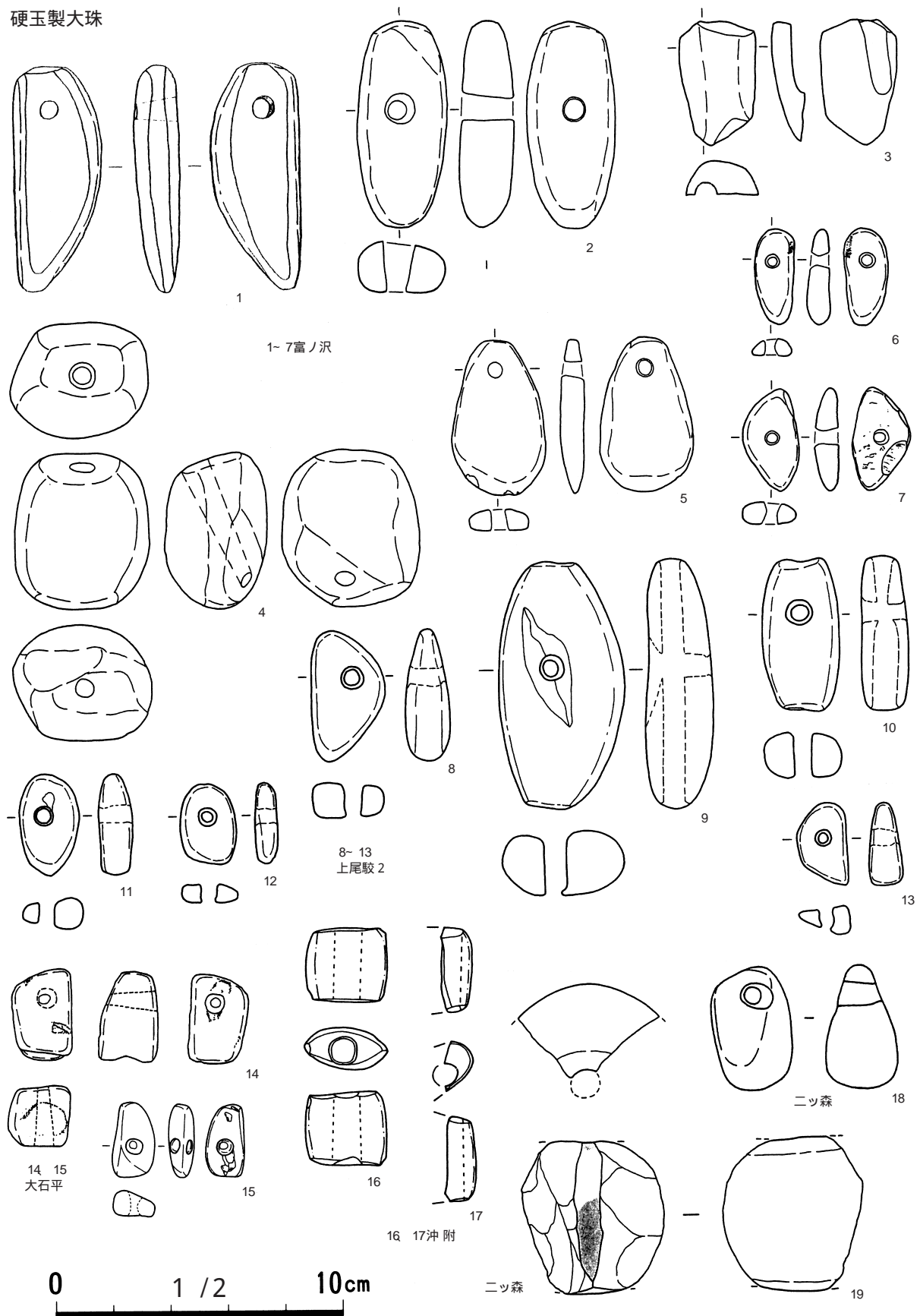
南部地域 石製装身具

块状耳飾

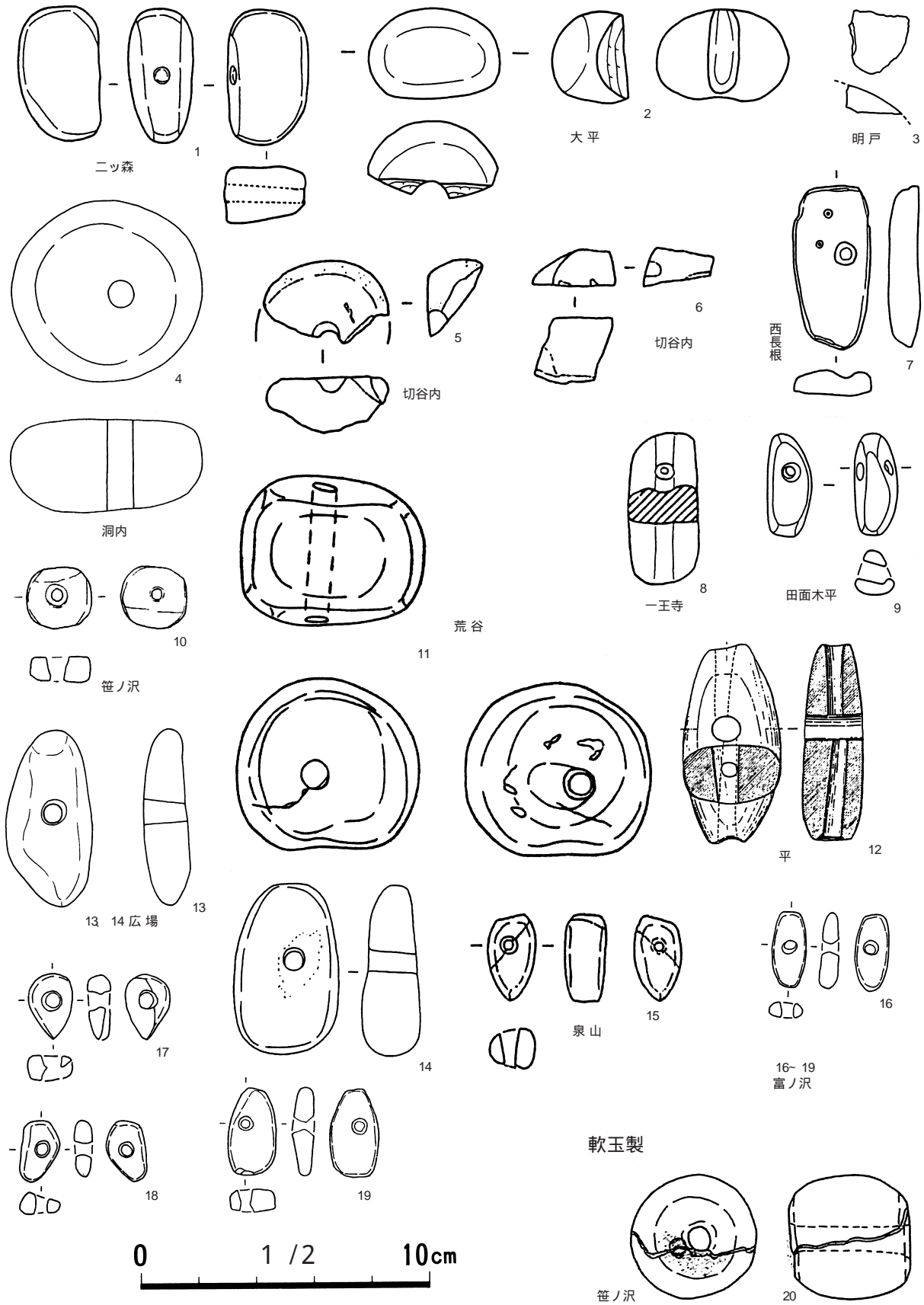


図版5 (南部地域1)

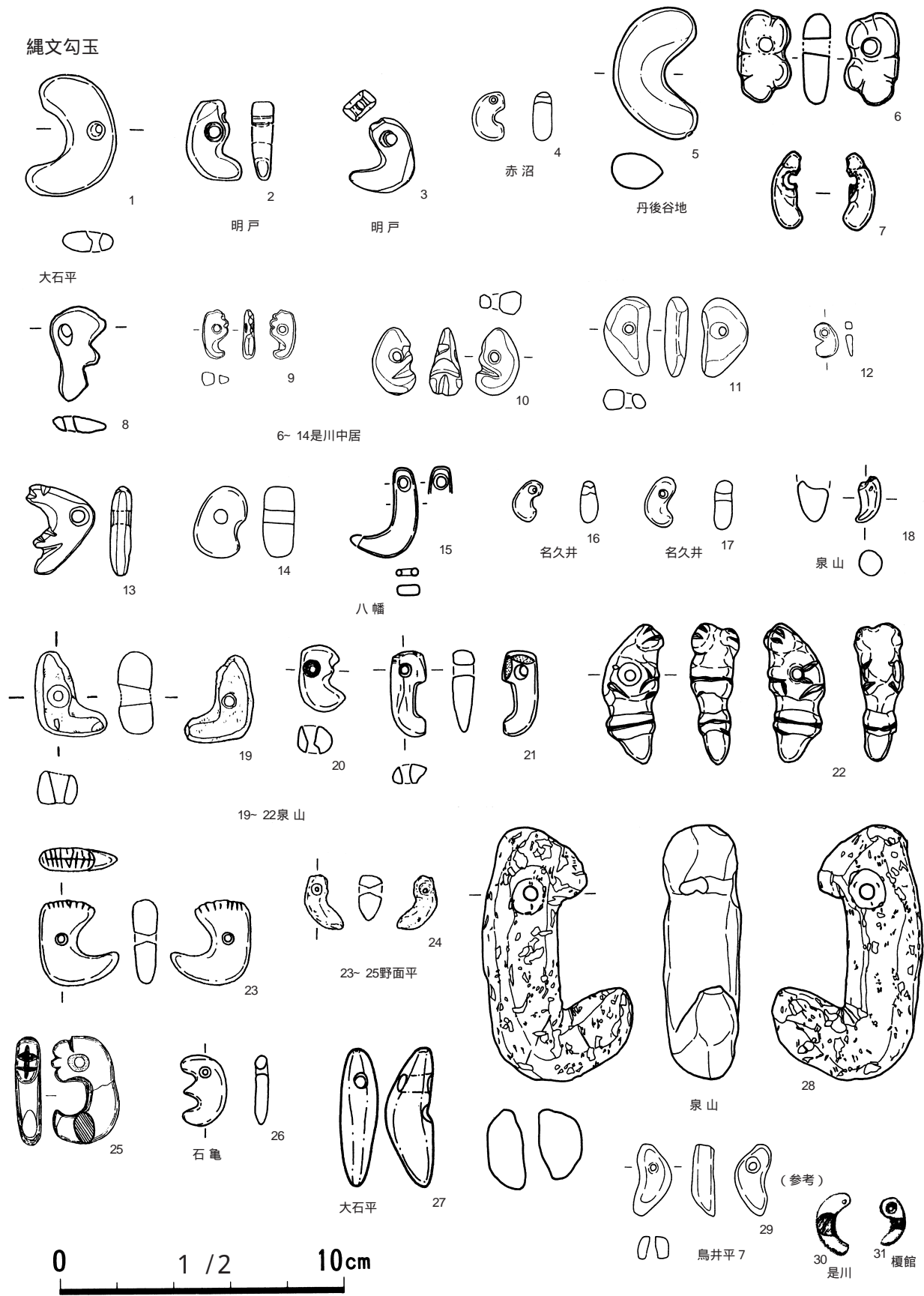
硬玉製大珠



図版6 (南部地域2)



図版 7 (南部地域 3)



図版 8 (南部地域4)

(共伴櫛)



第 10 号土坑



1

第 25 号土坑

2

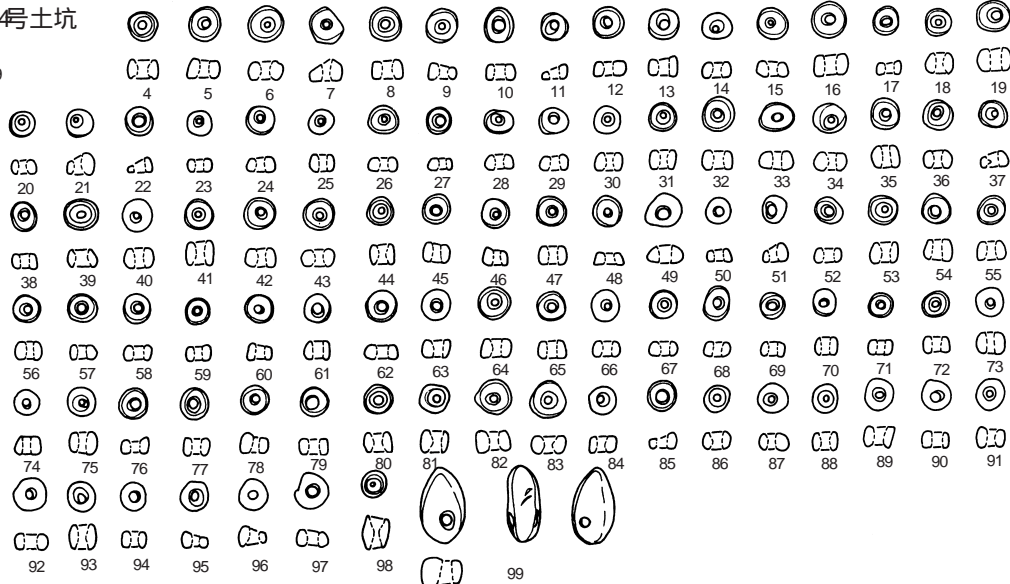
第 89 号土坑

3

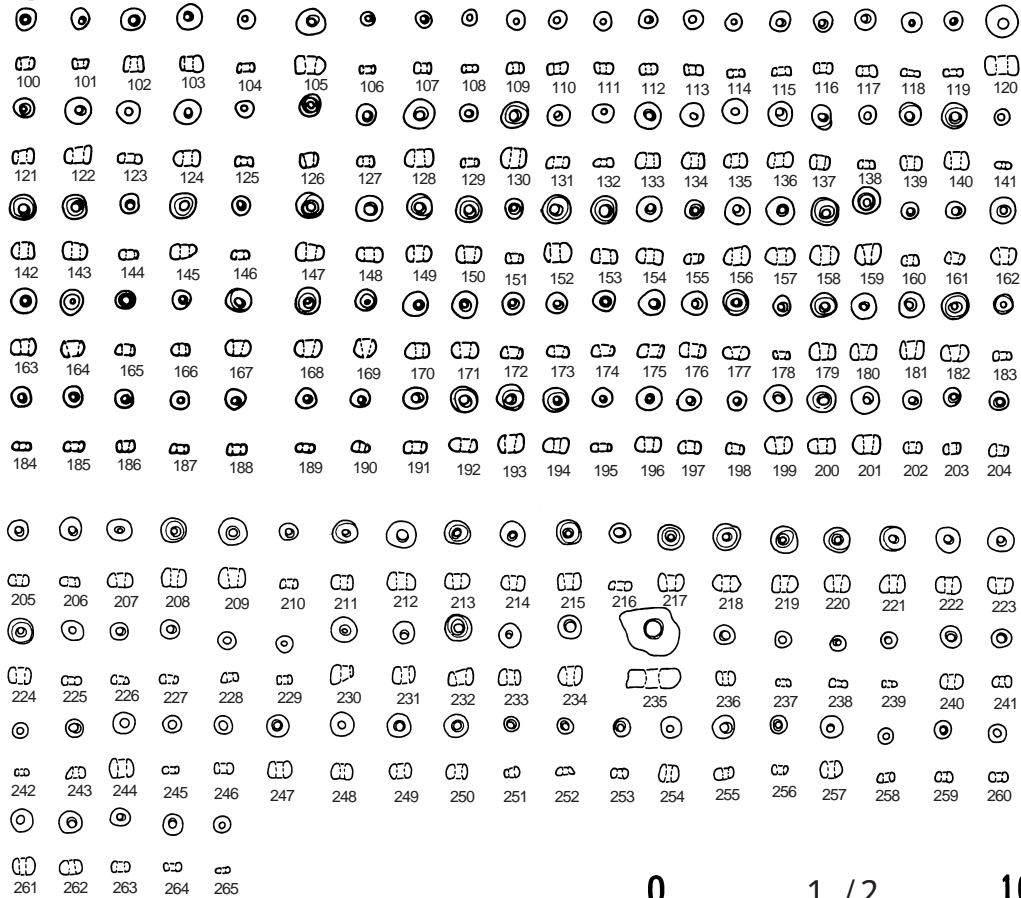
全て上尾駁 (1) 遺跡地区

第 1 号土坑

4- 99



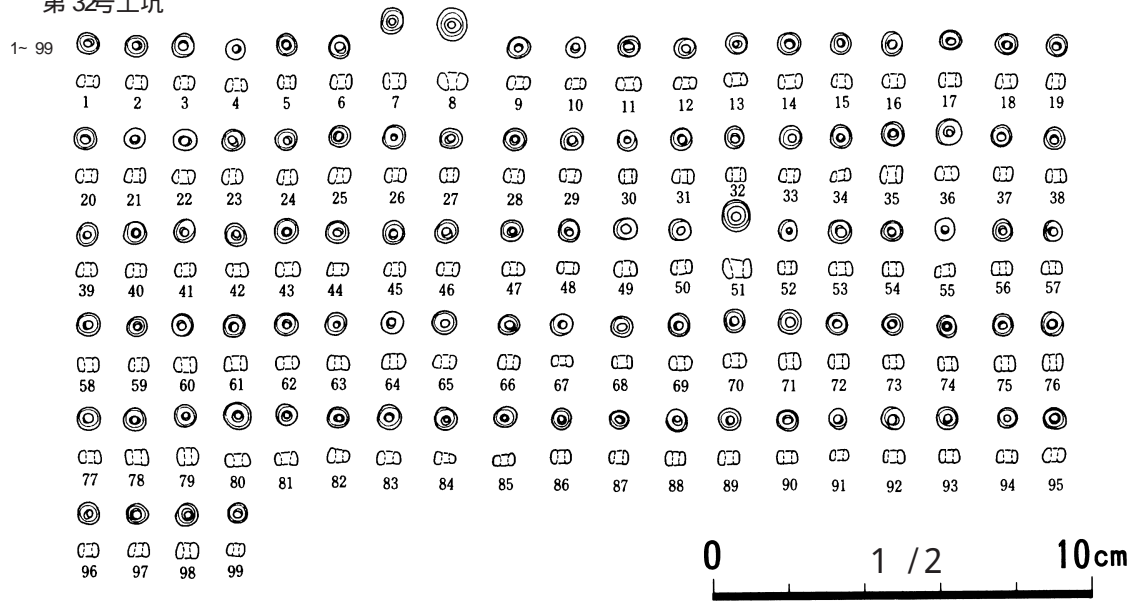
第 25 号土坑

100
265

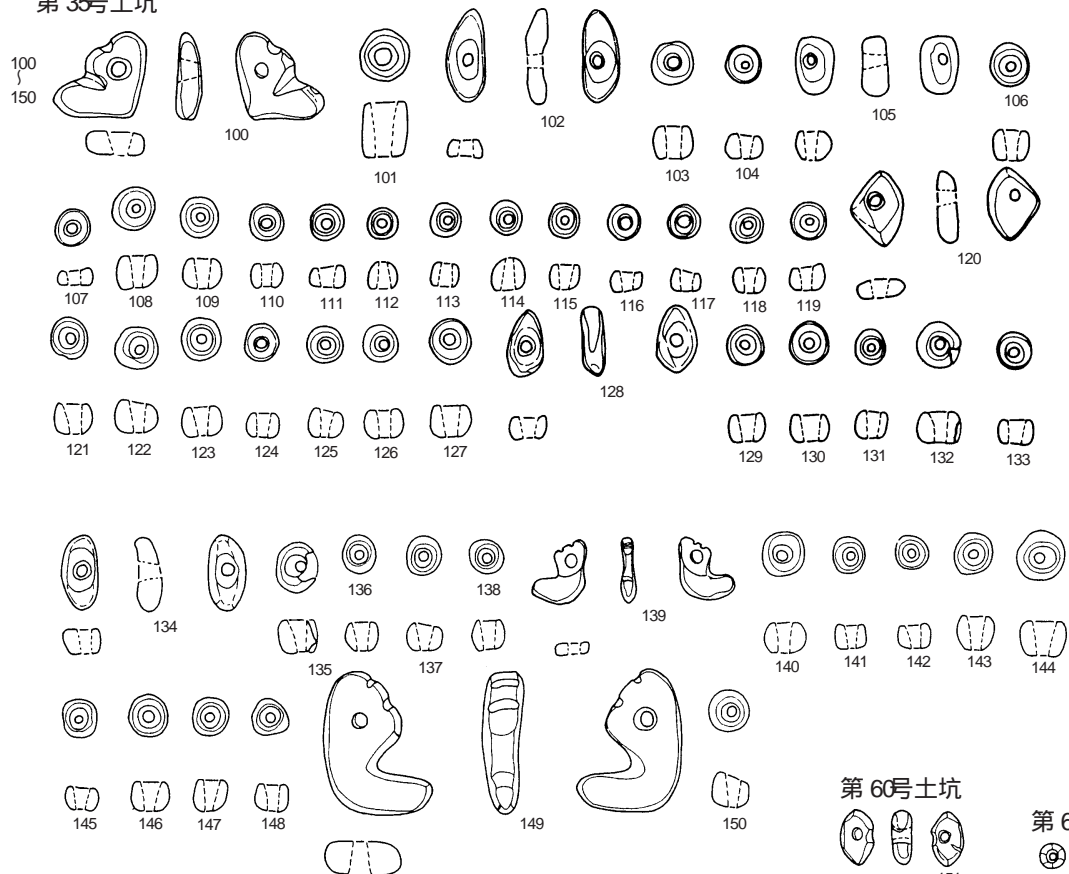
0 1 / 2 10cm

図版 9 (南部地域 5)

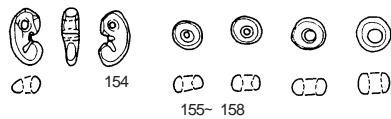
第32号土坑



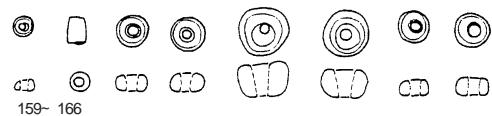
第35号土坑



第73号土坑



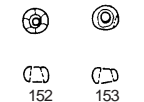
全て上尾駁(1)C地区

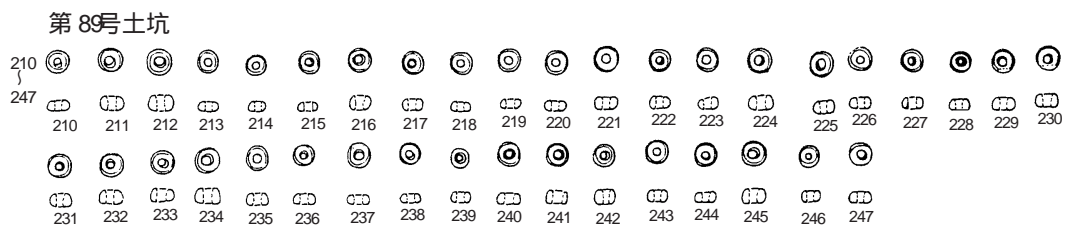
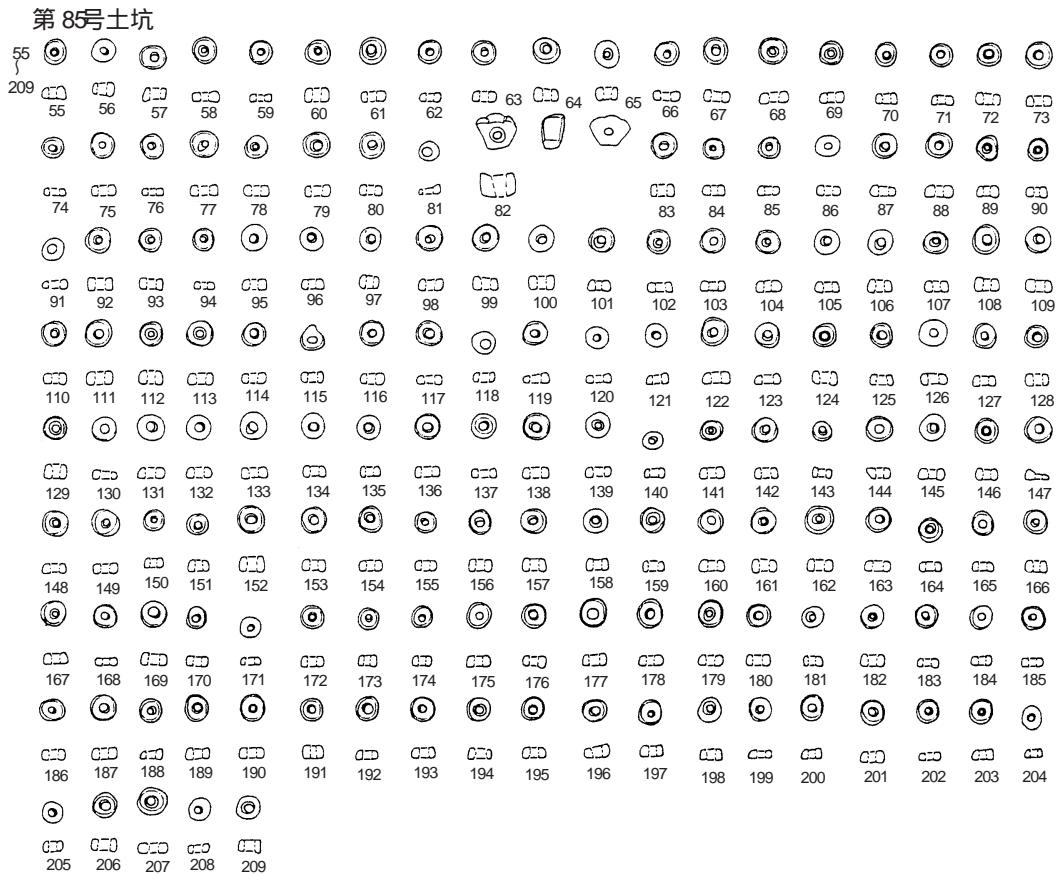
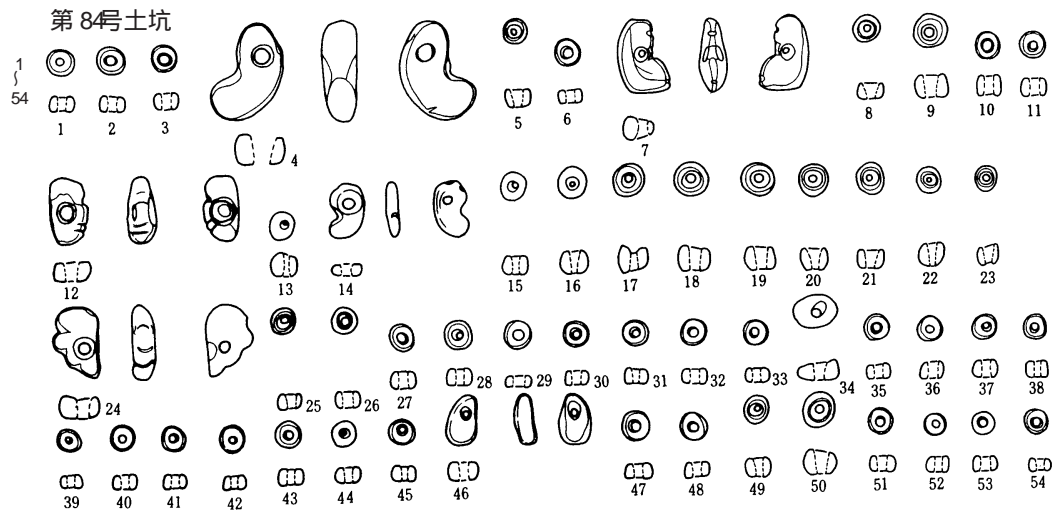
第86号
土坑

第60号土坑



第62号土坑



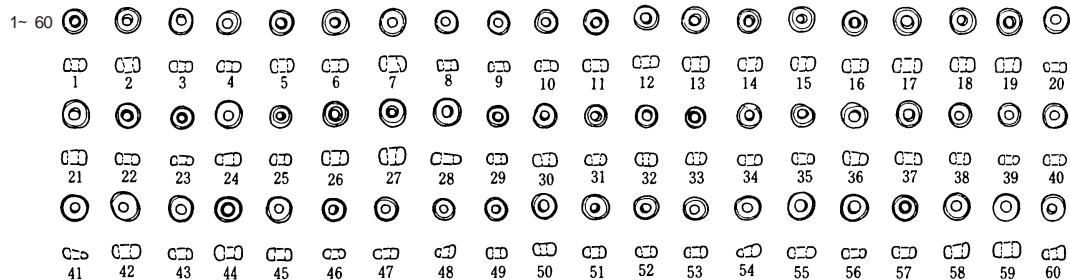


全て上尾駁 (1) 遺跡地区

0 1 / 2 10cm

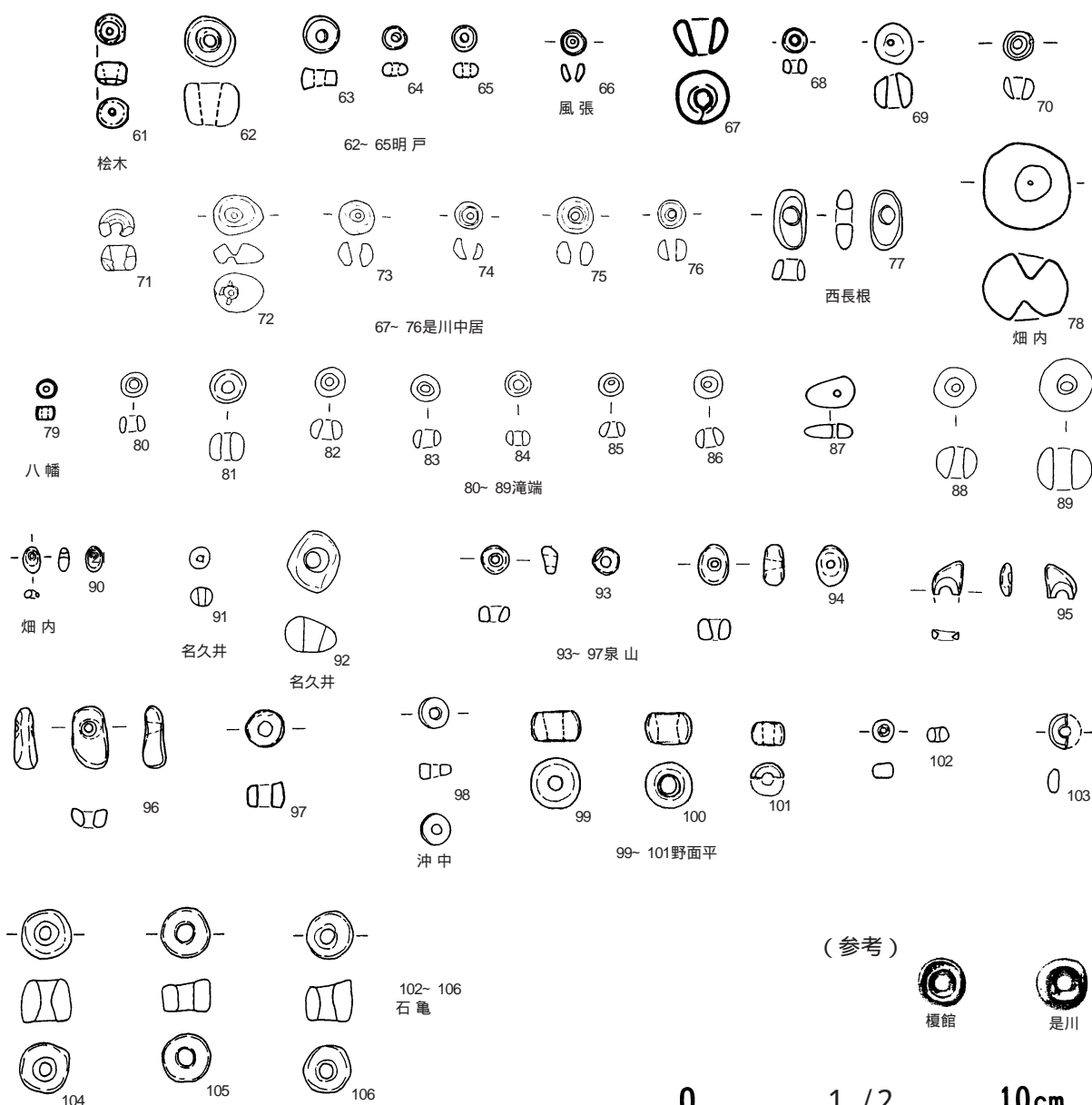
図版 11 (南部地域 7)

第68号土坑



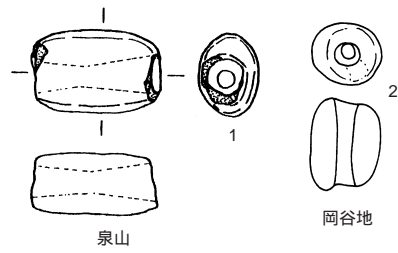
1~60上尾紋 1) 遺跡地区

丸玉、小玉

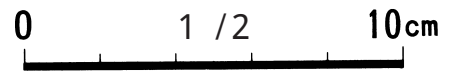
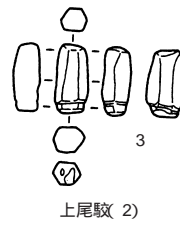


図版 12 (南部地域 8)

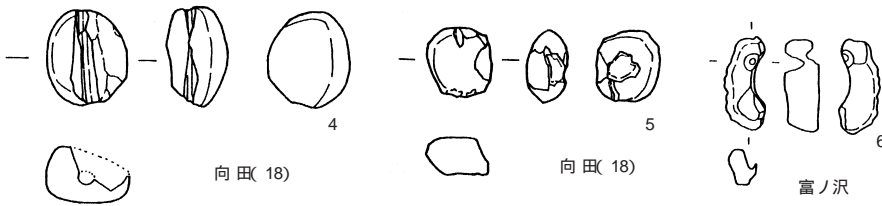
管玉



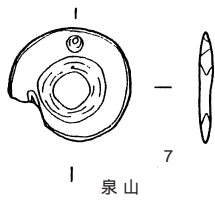
水晶玉



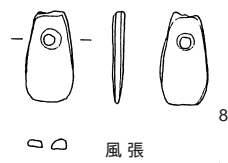
琥珀玉



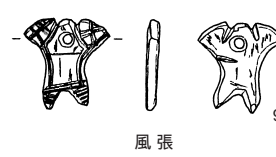
の字形



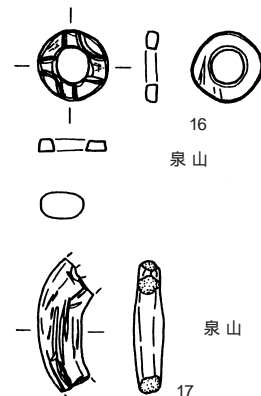
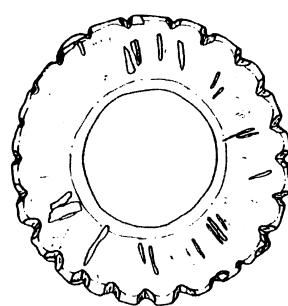
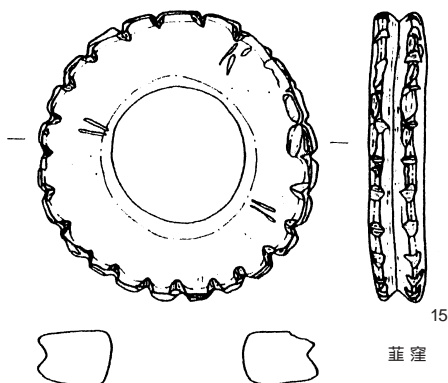
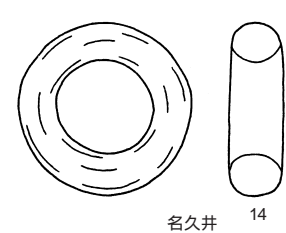
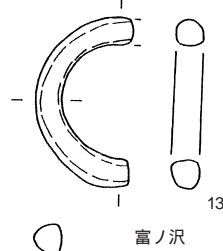
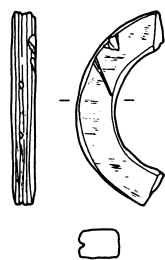
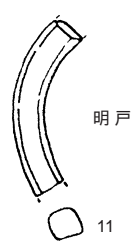
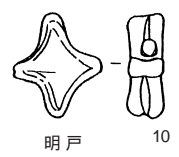
玉斧



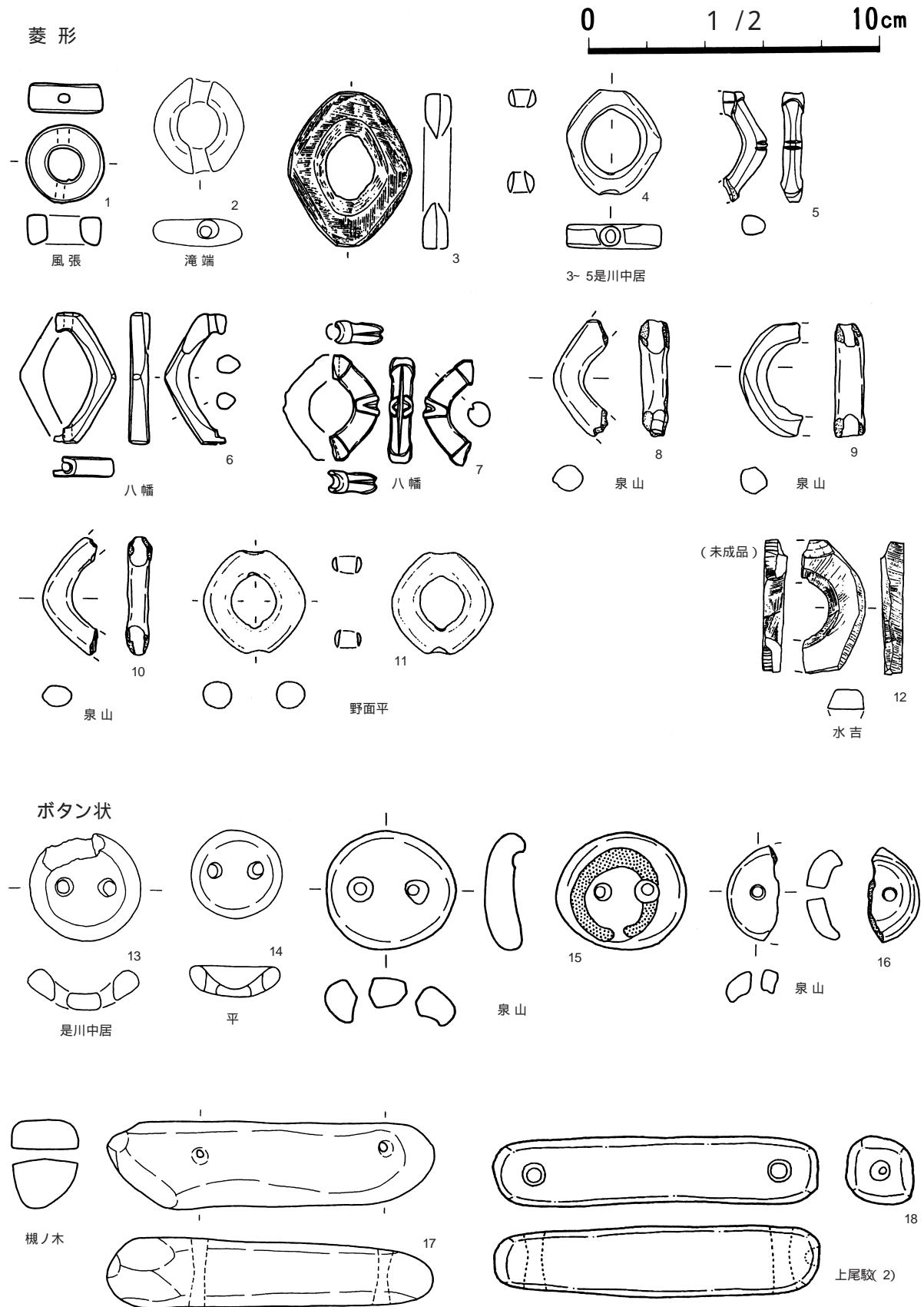
人形



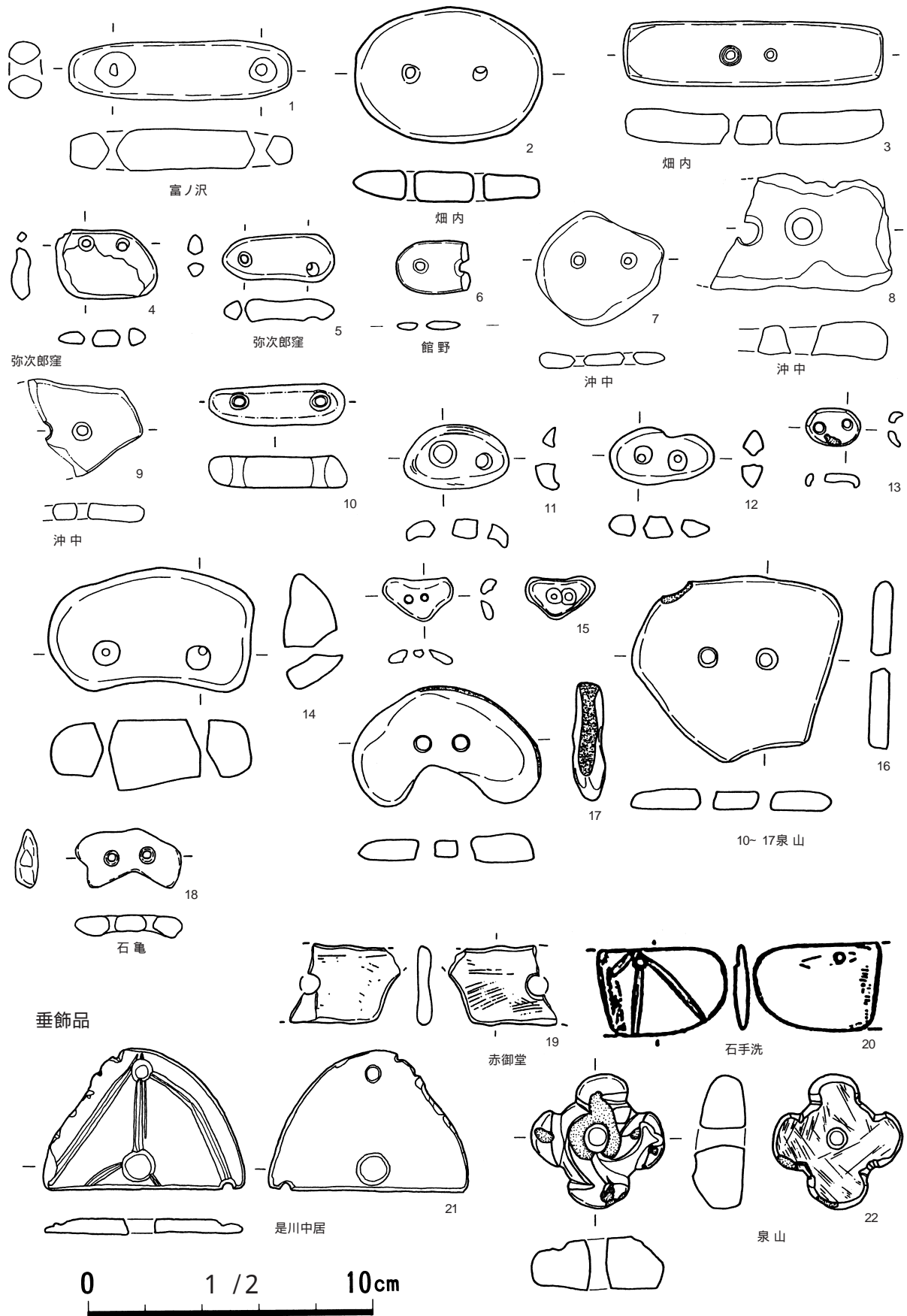
十字形



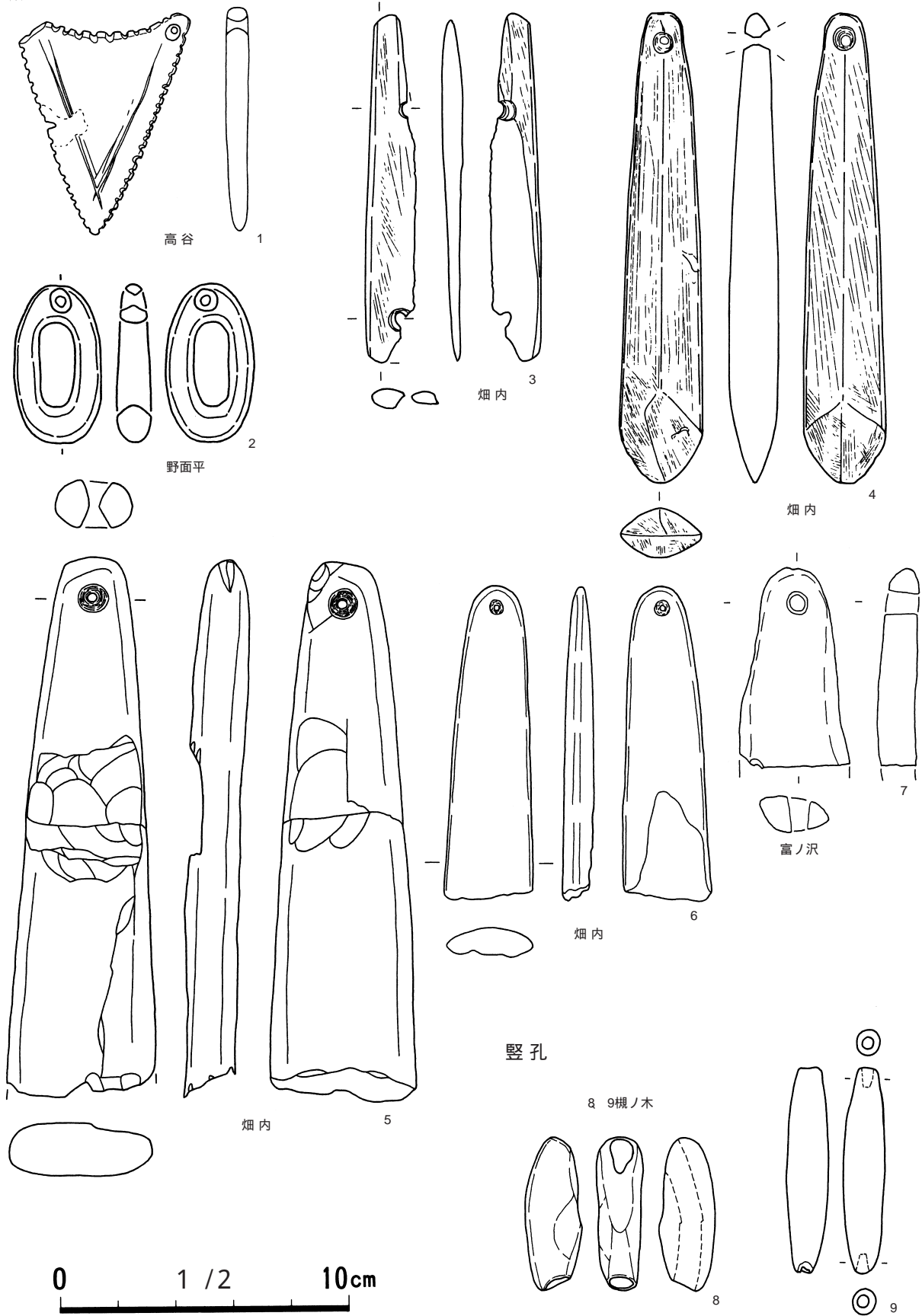
図版 13 (南部地域 9)



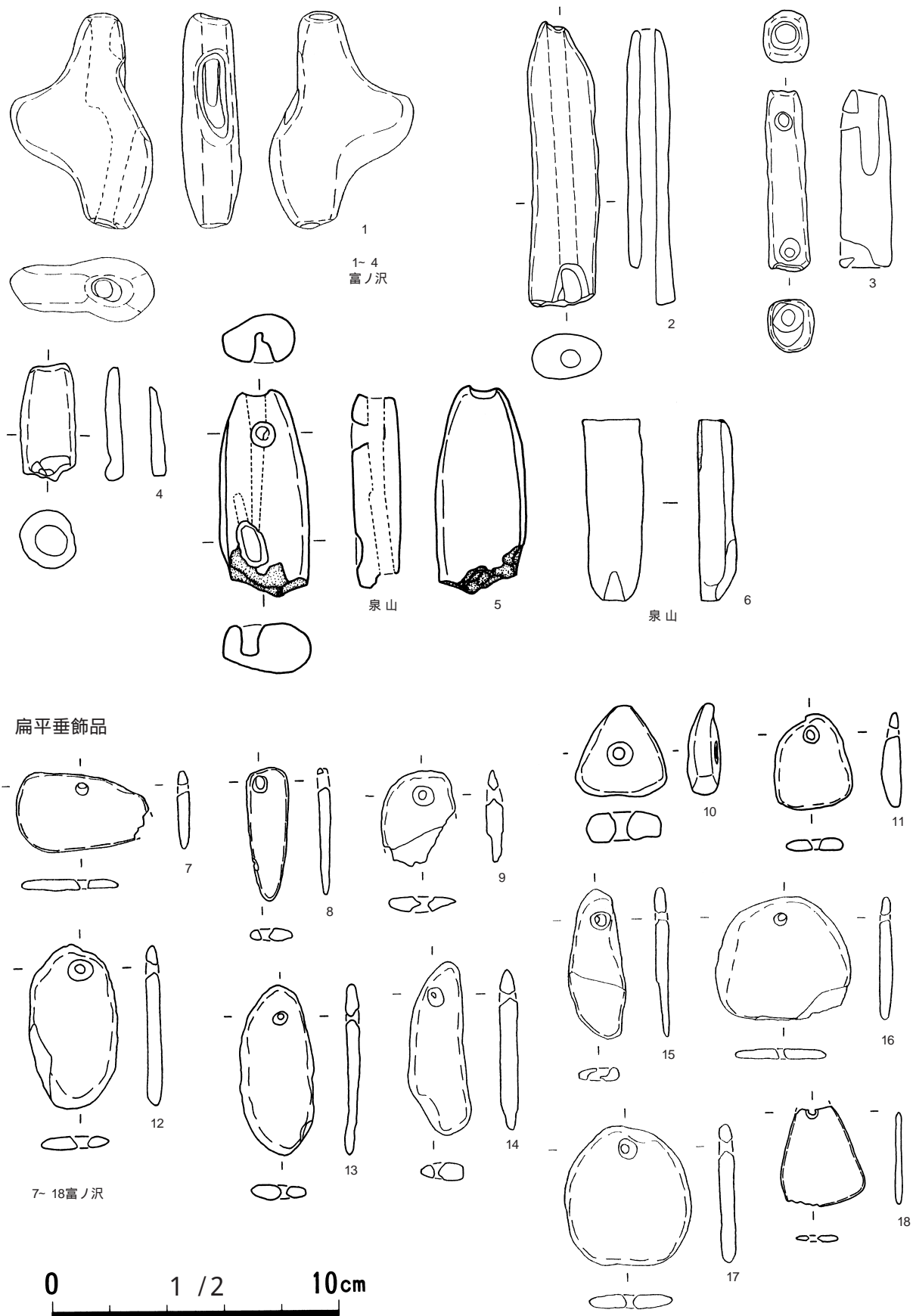
図版 14 (南部 10) 地域



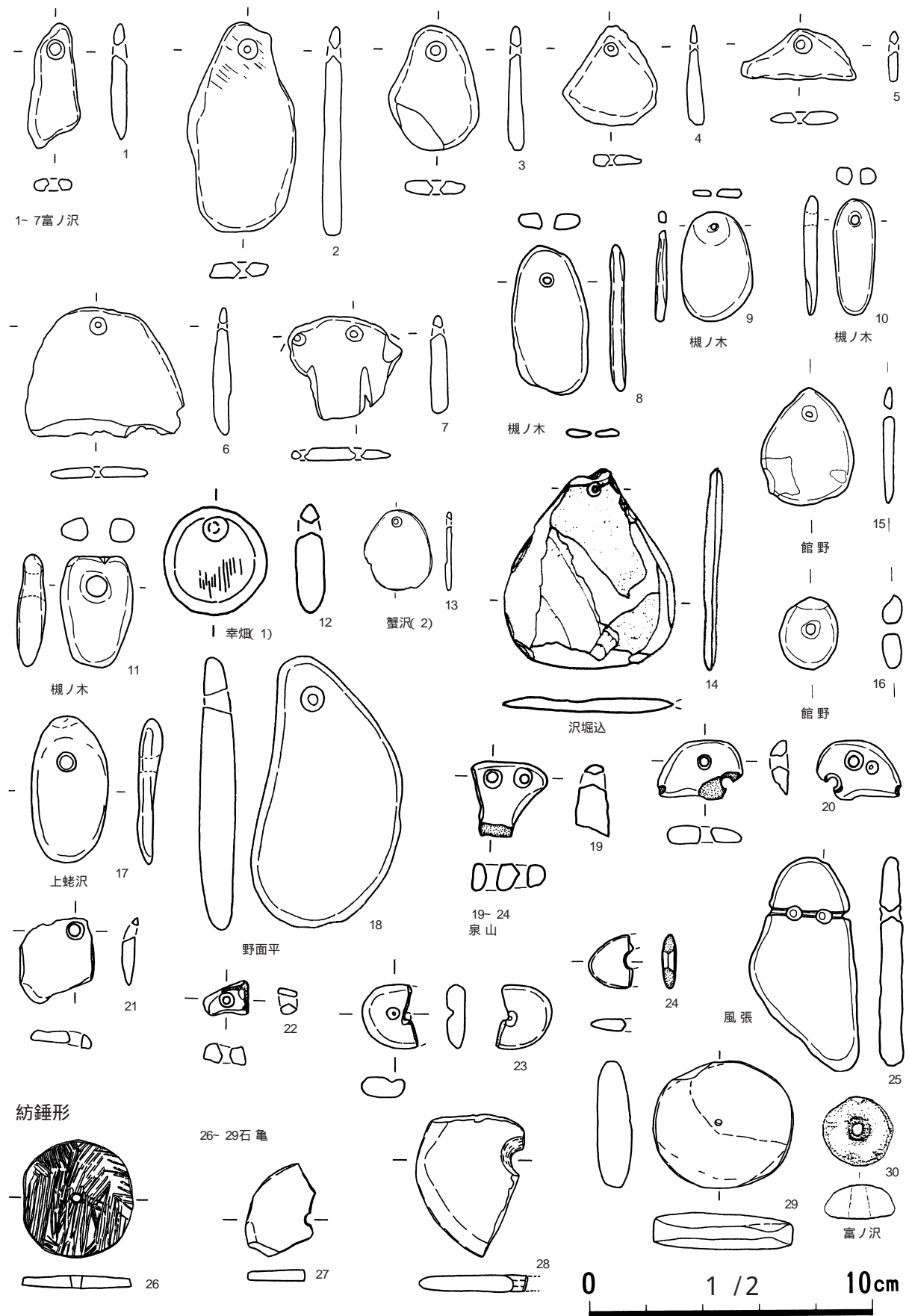
図版 15 (南部地域 11)



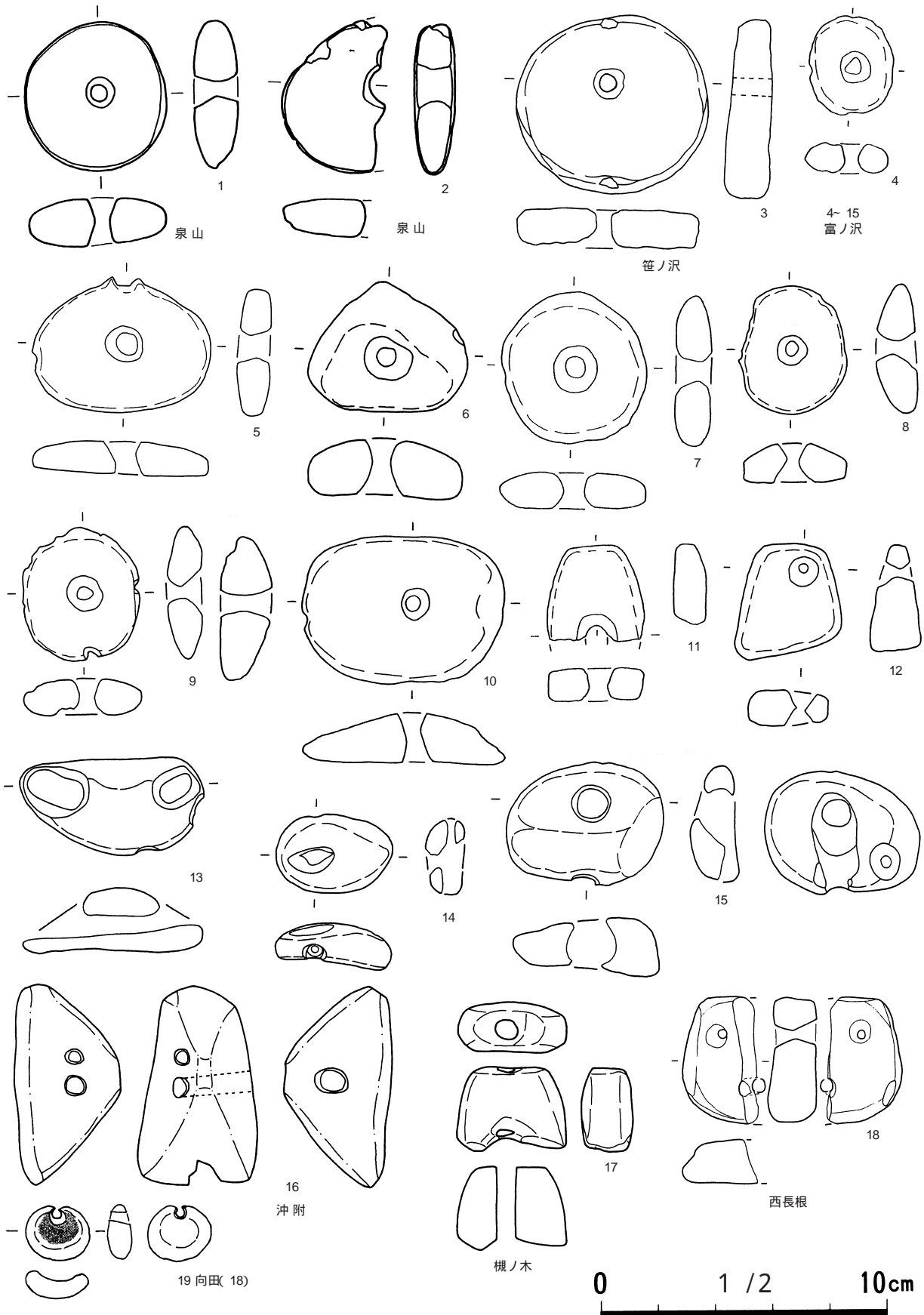
図版 16 (南部地域 12)



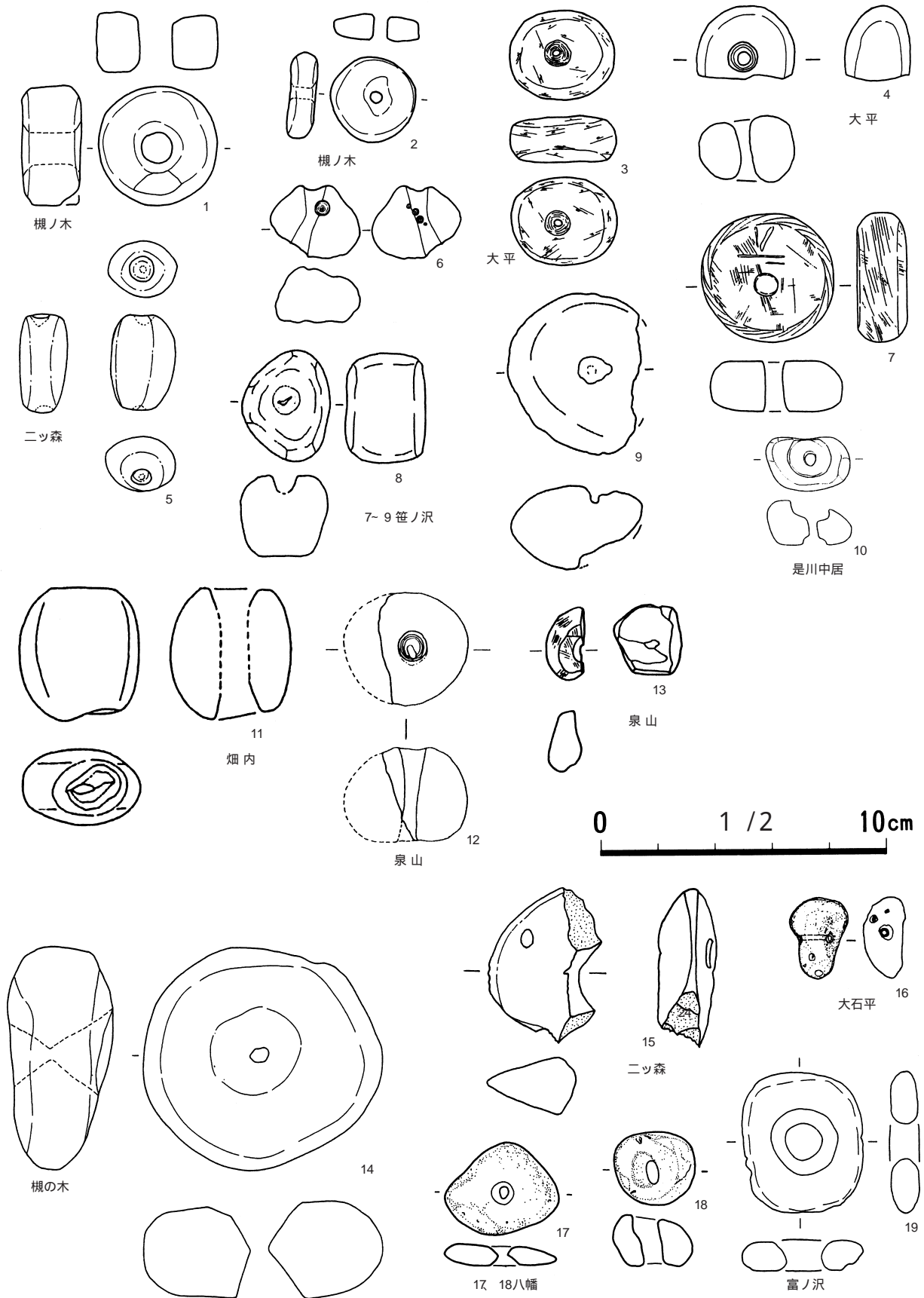
図版 17 (南部地域 13)



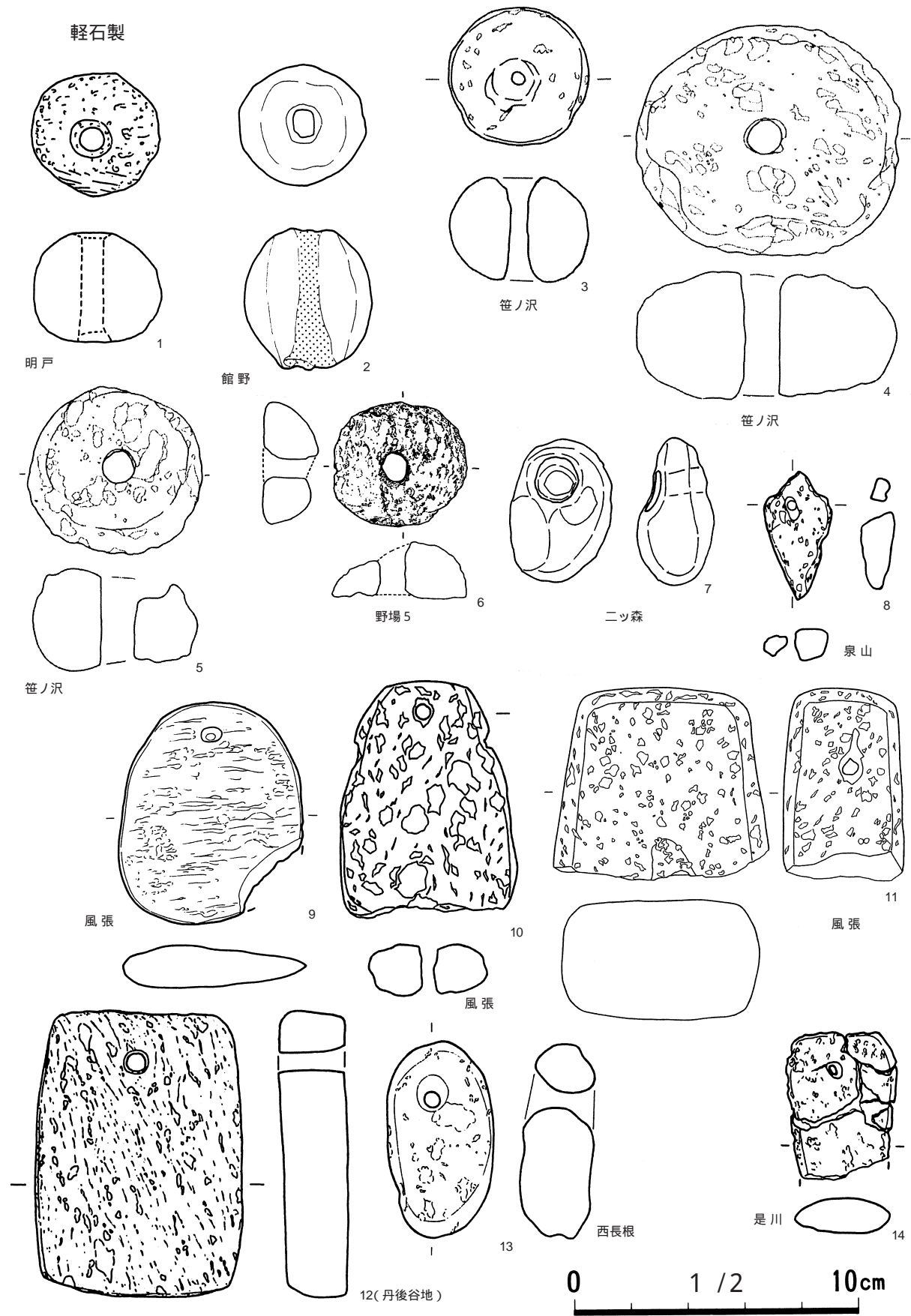
図版 18 (南部地域 14)



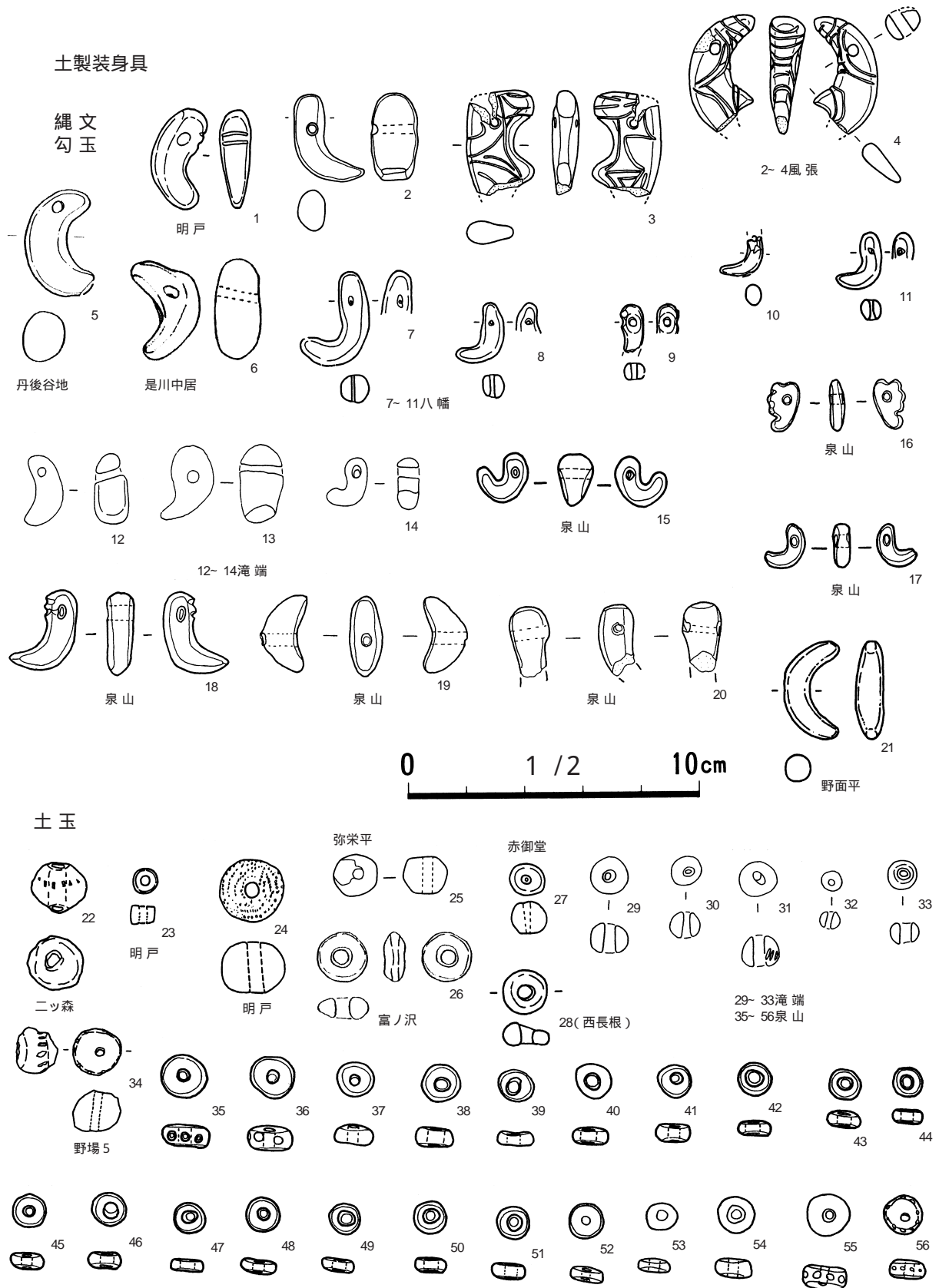
図版 19 (南部地域 15)



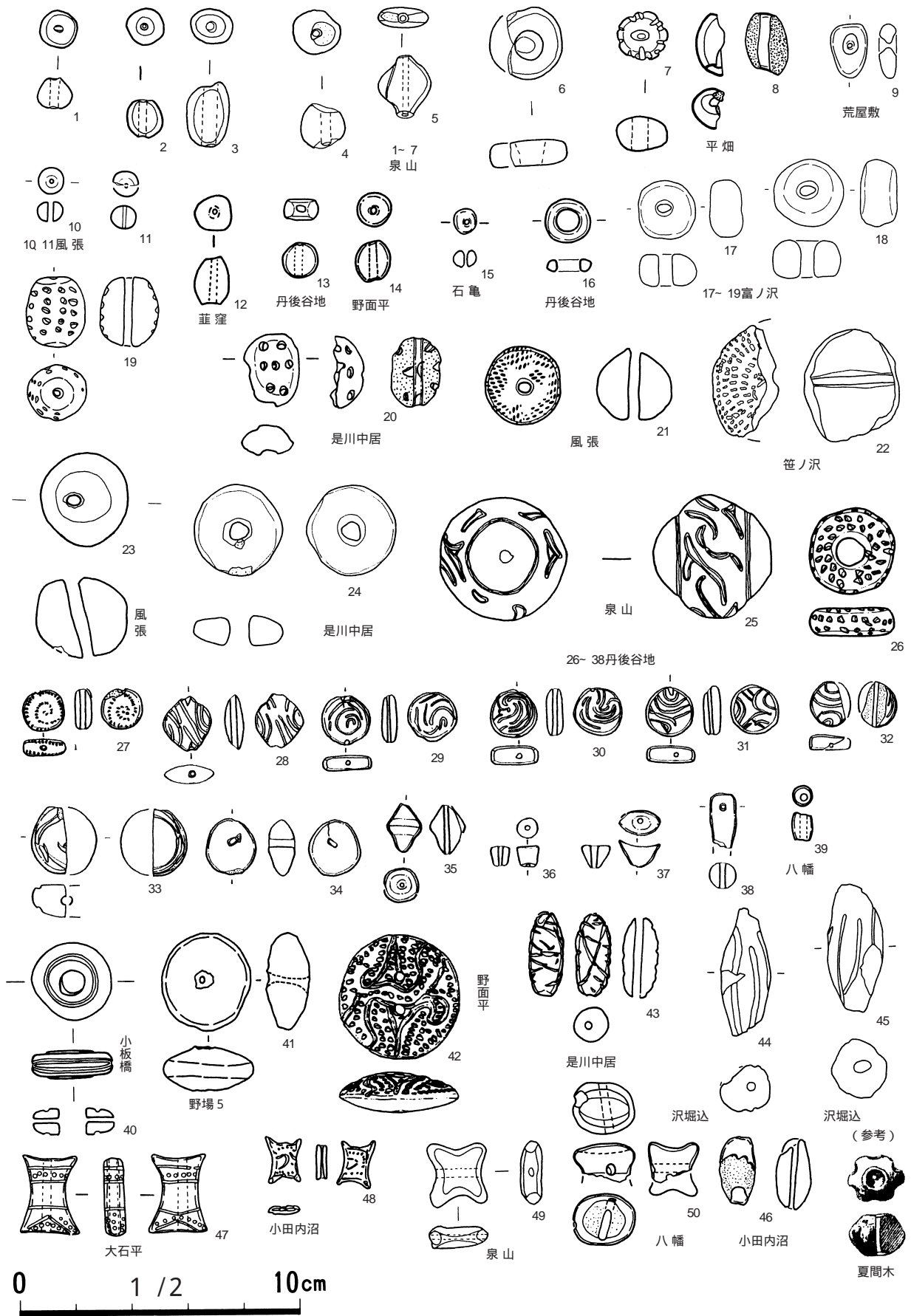
図版 20 (南部地域 16)



図版 21 (南部地域 17)



図版 22 (南部地域 18)

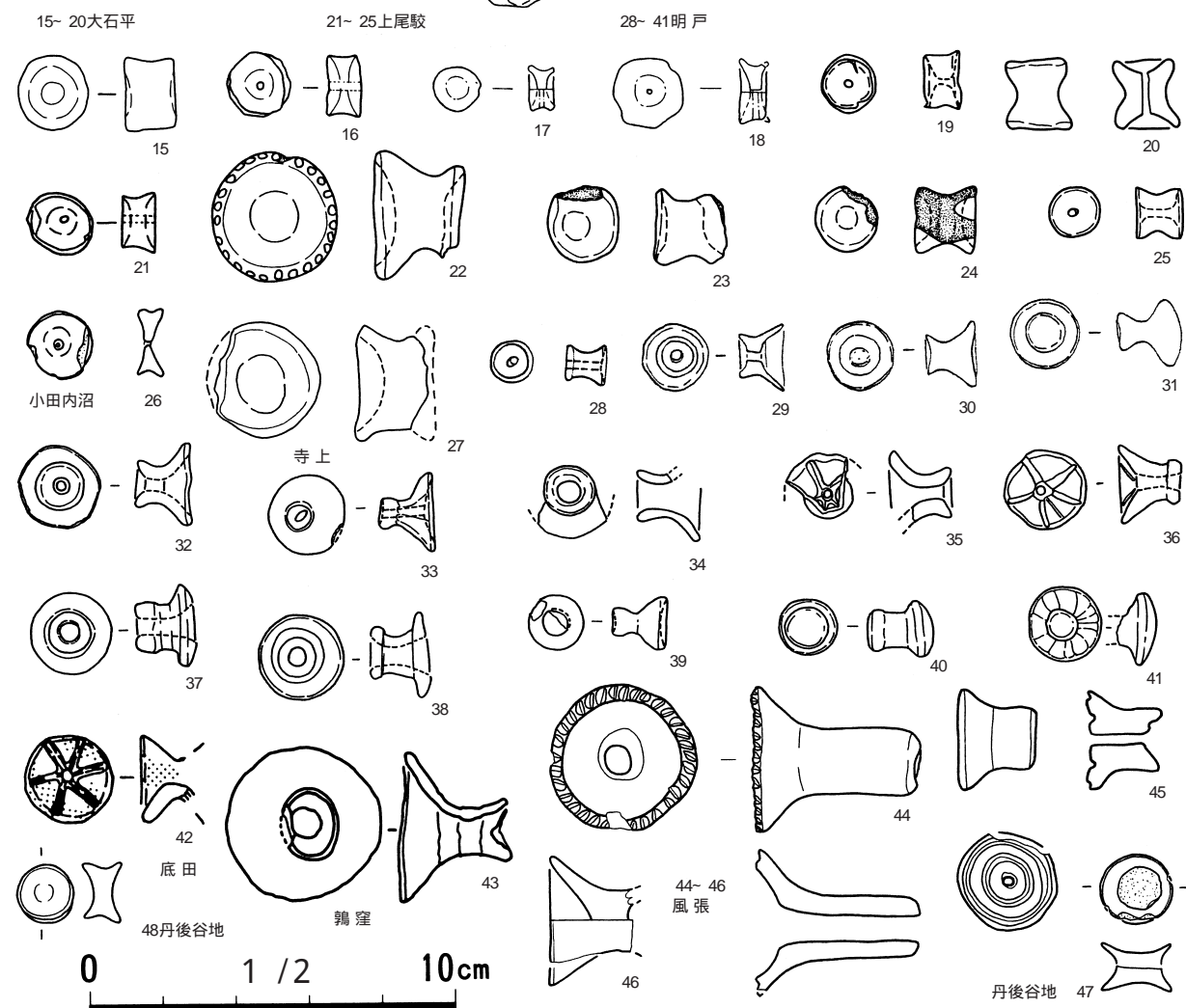


図版 23 (南部地域 18)

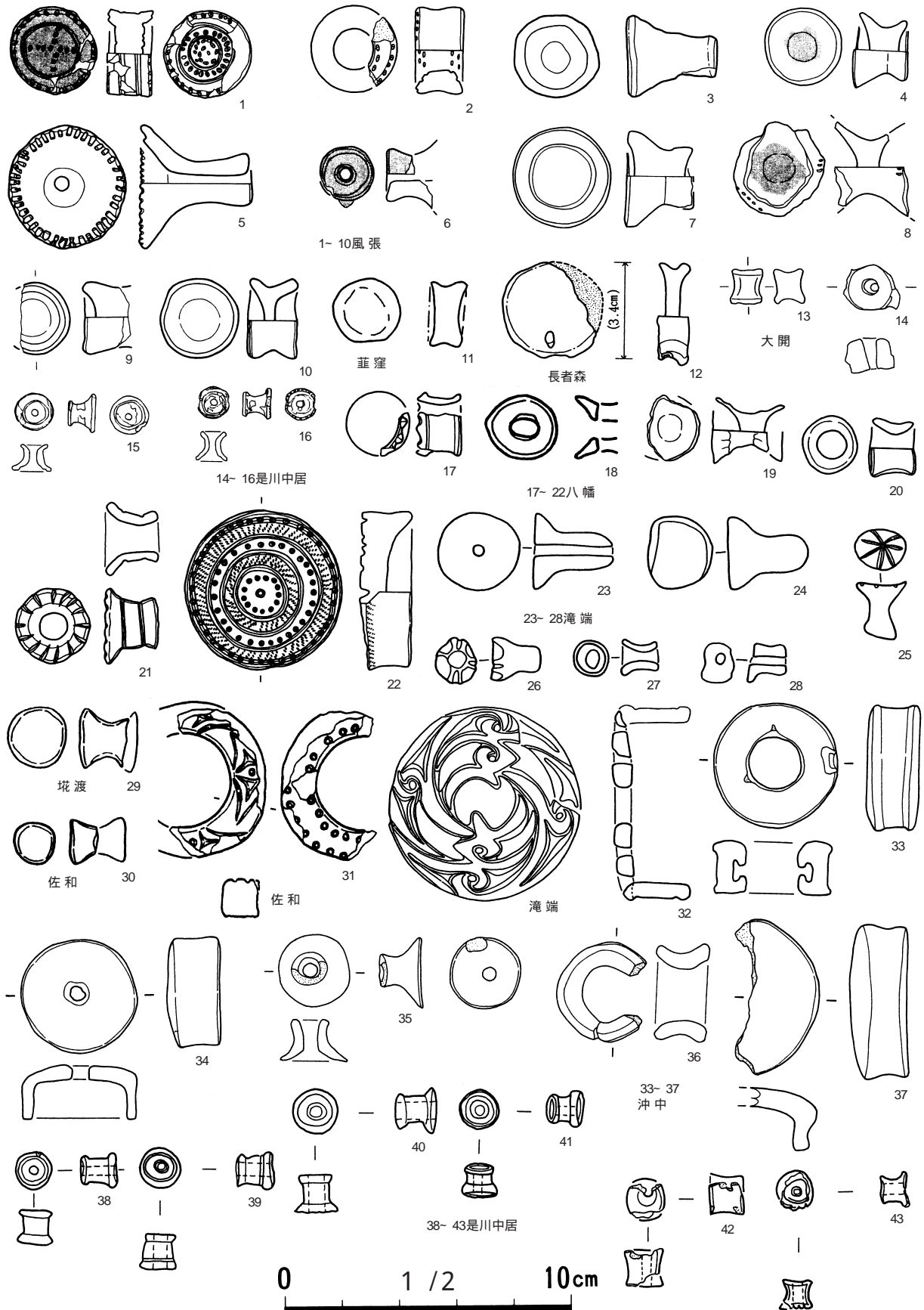
土製管玉（管状土製品）



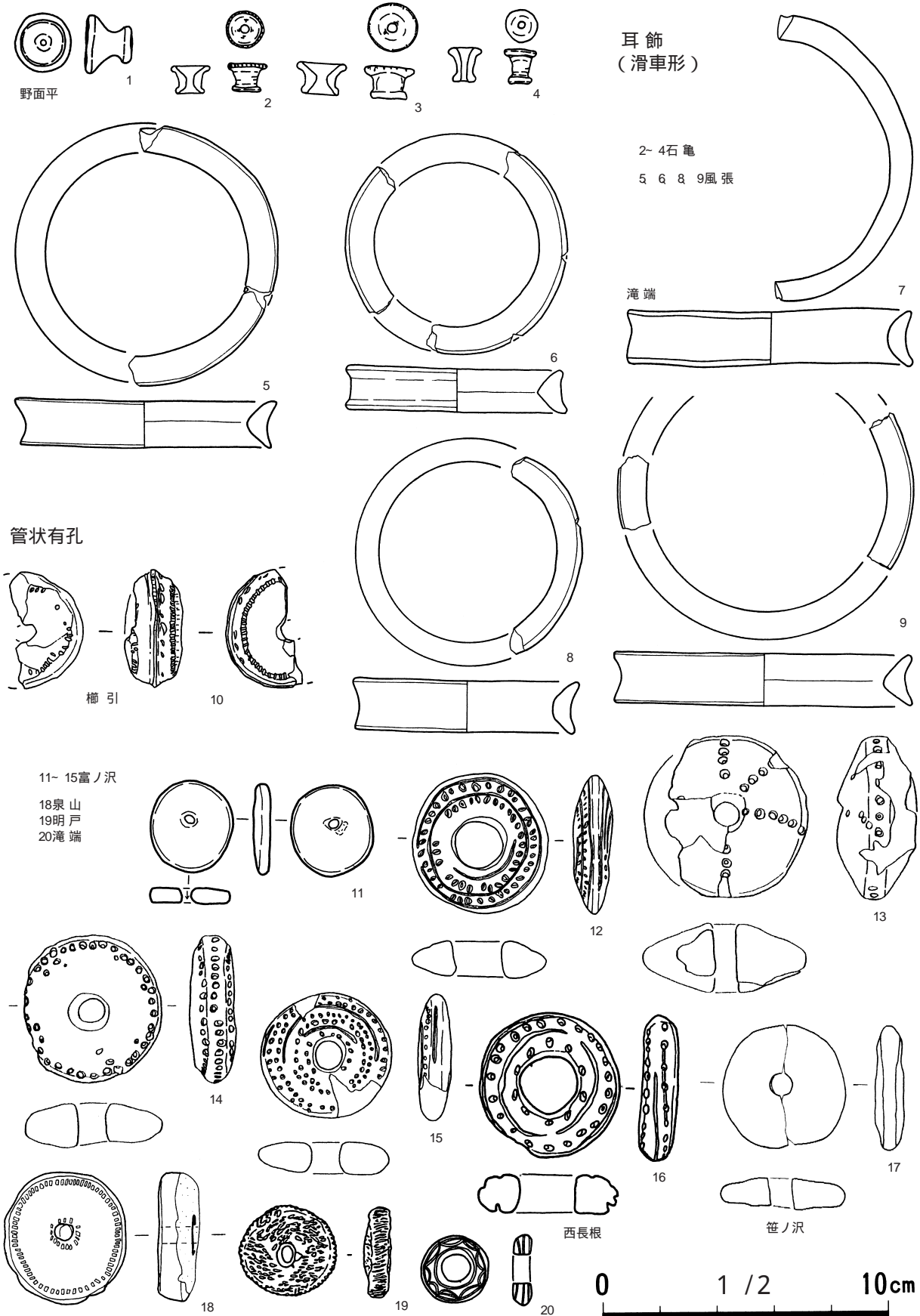
耳飾（耳栓）



図版 24（南部地域 20）

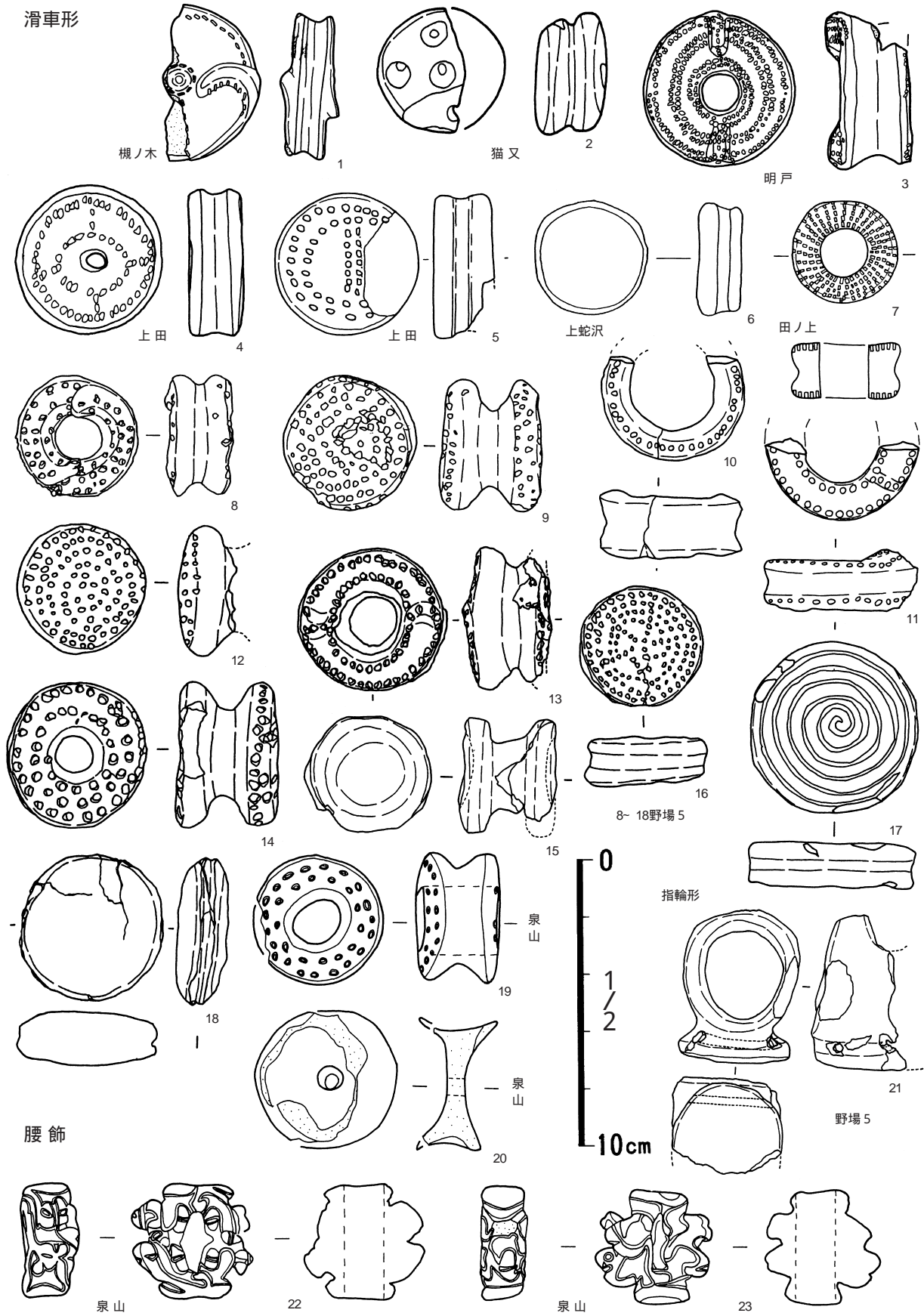


図版 25 (南部地域 21)

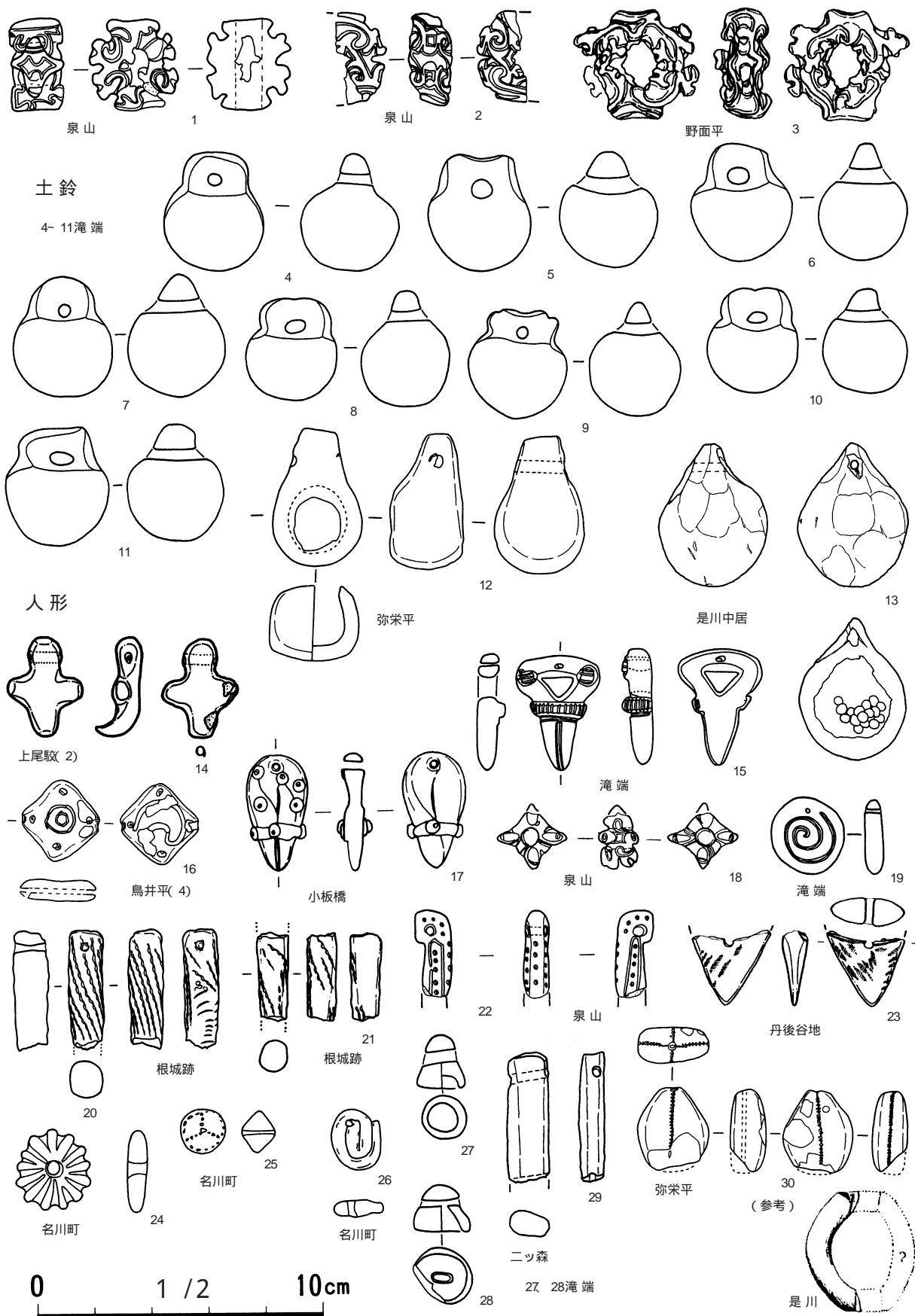


図版 26 (南部地域 22)

滑車形

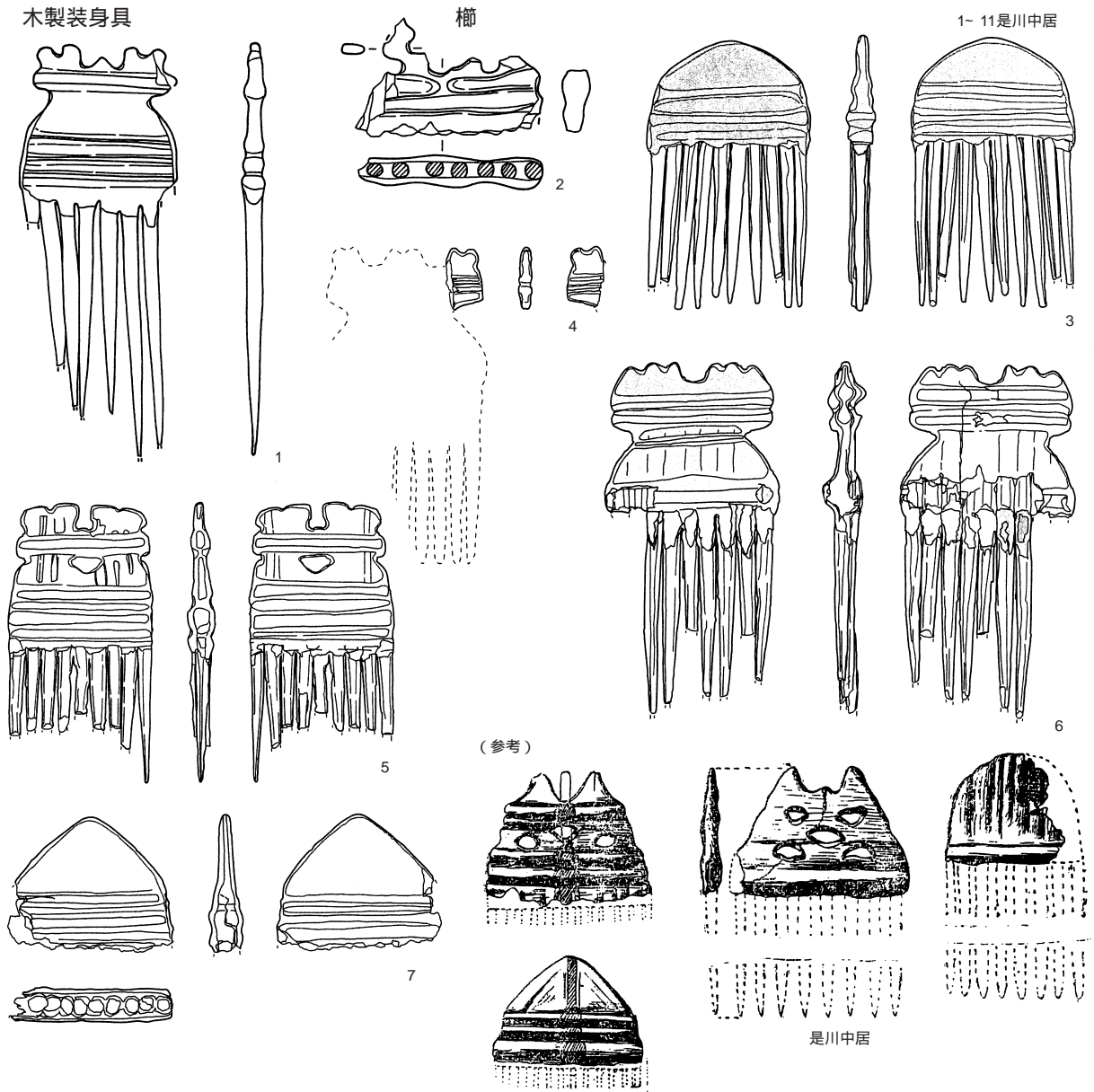


図版 27 (南部地域 23)

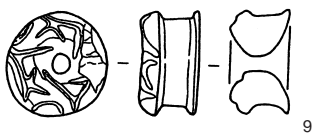
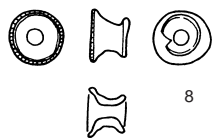


図版 28 (南部地域 24)

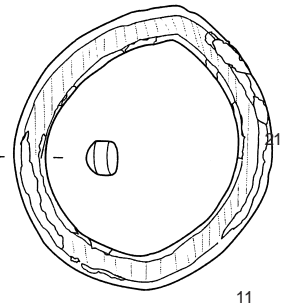
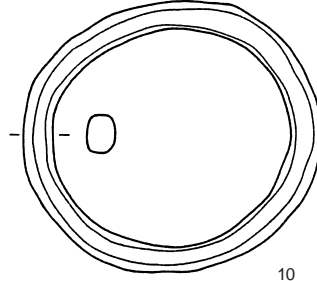
木製装身具

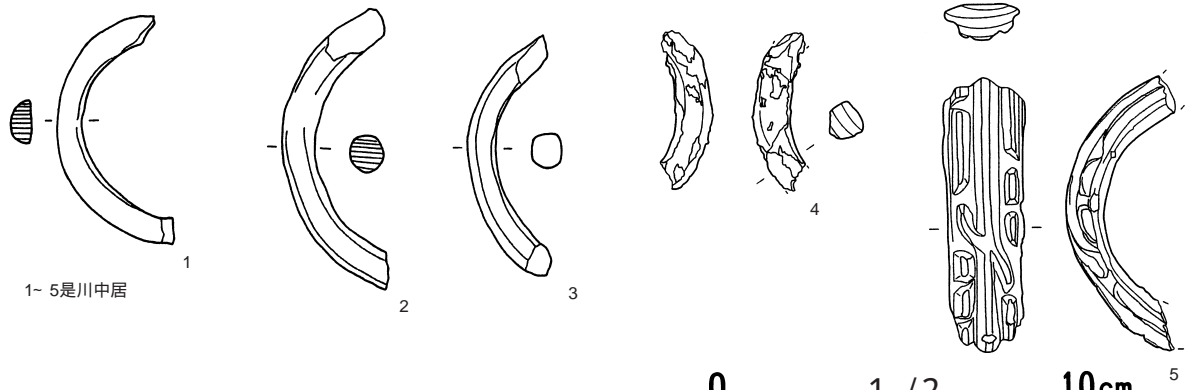


耳飾

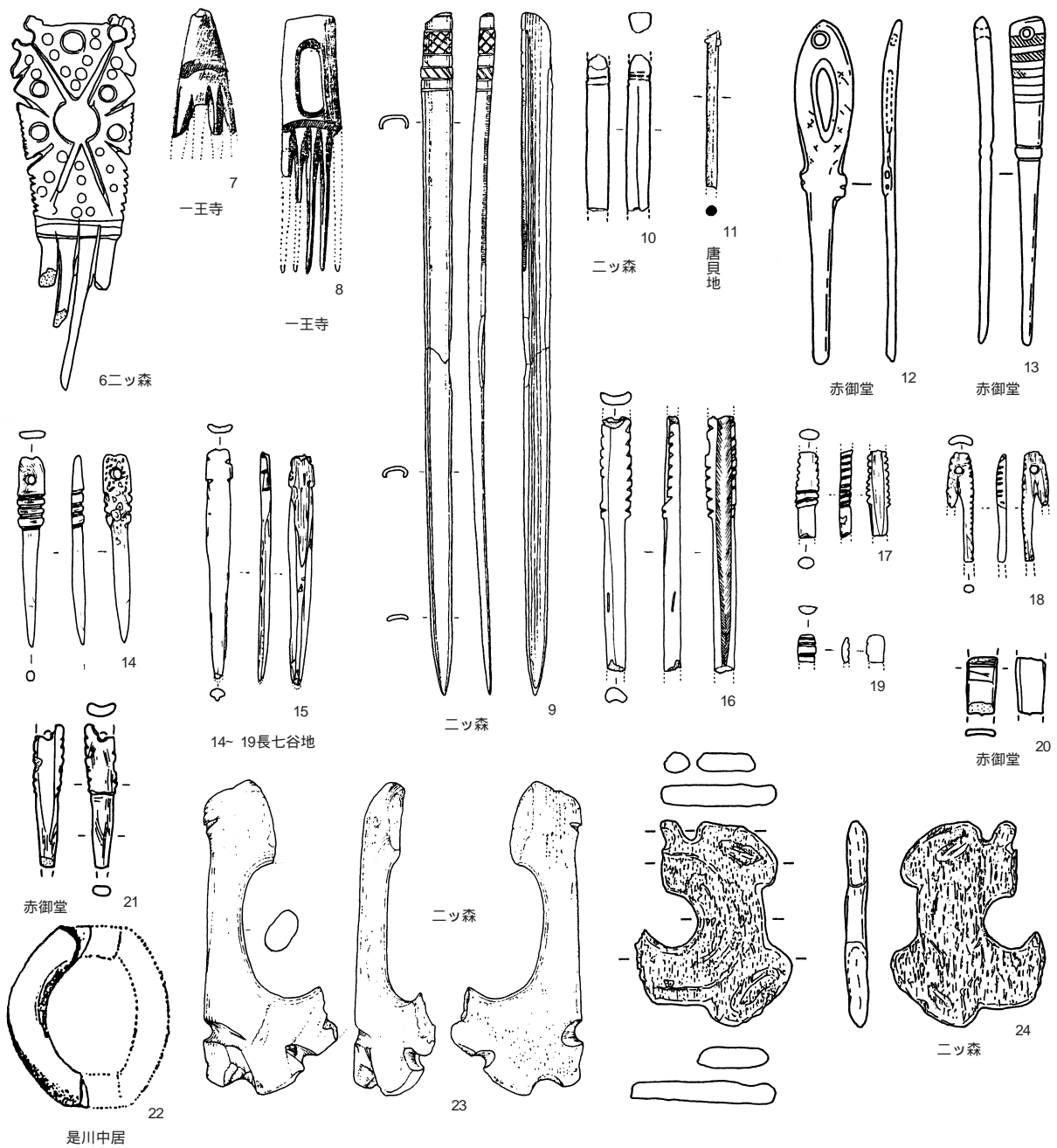


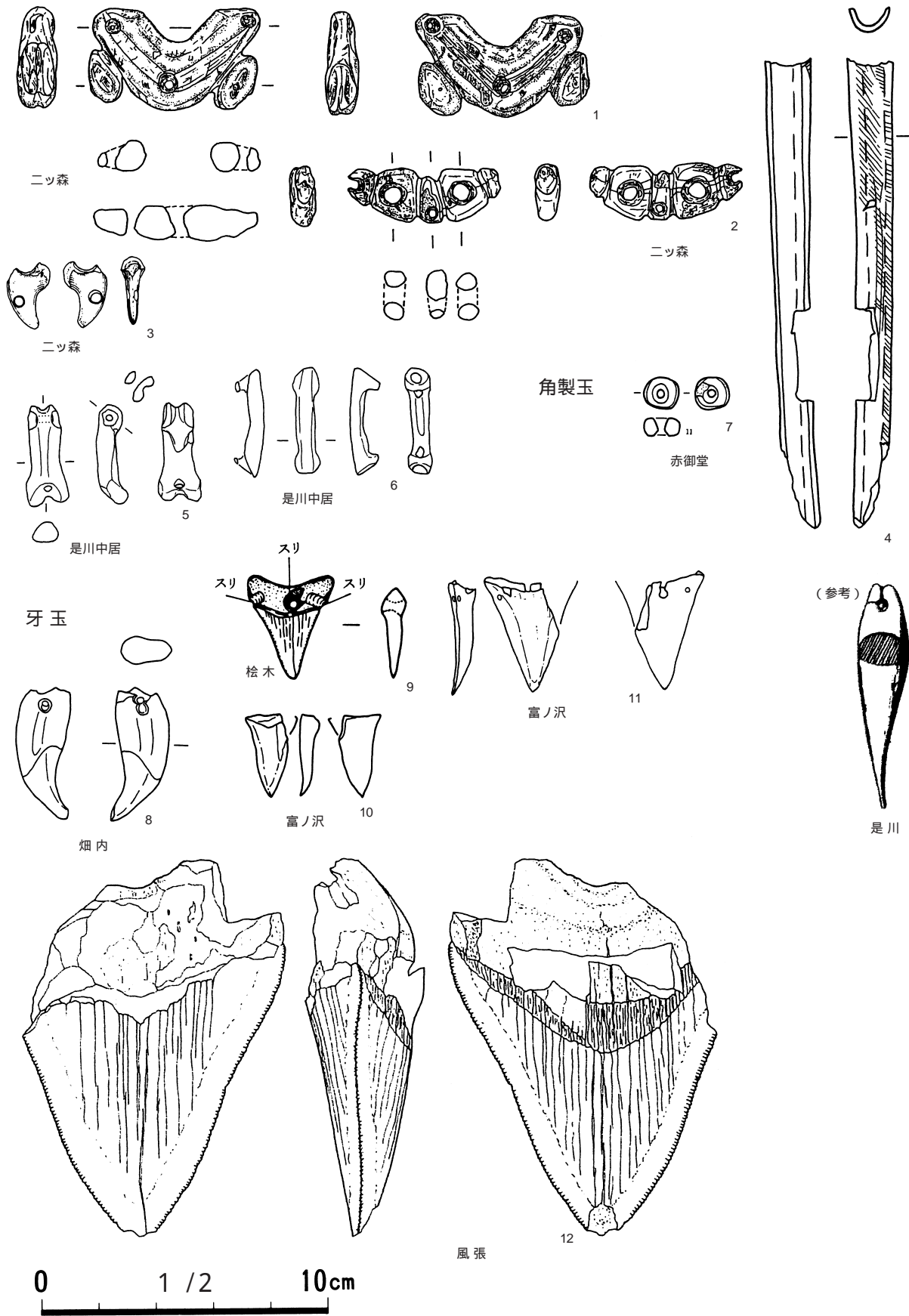
腕輪



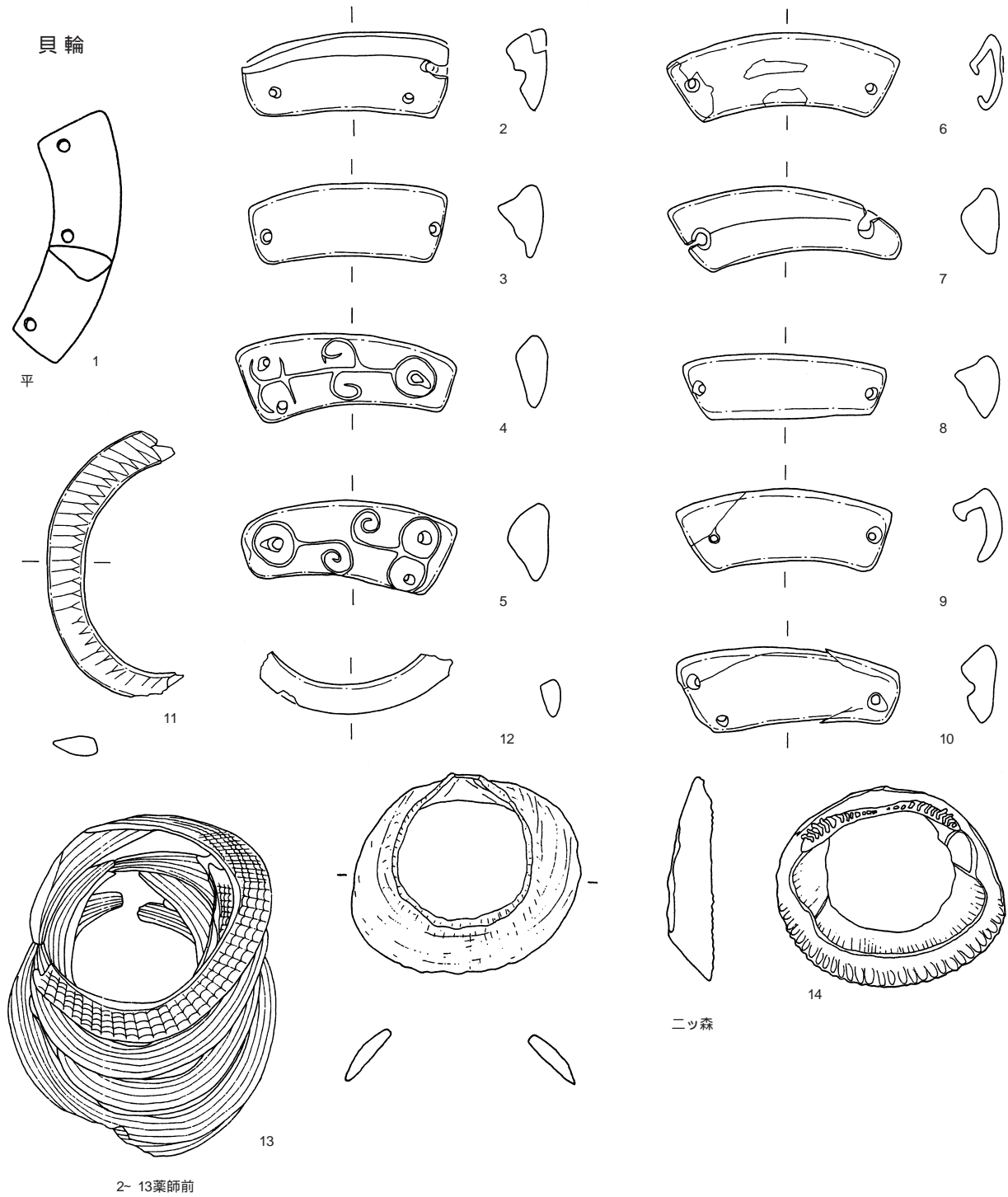


骨角製装身具



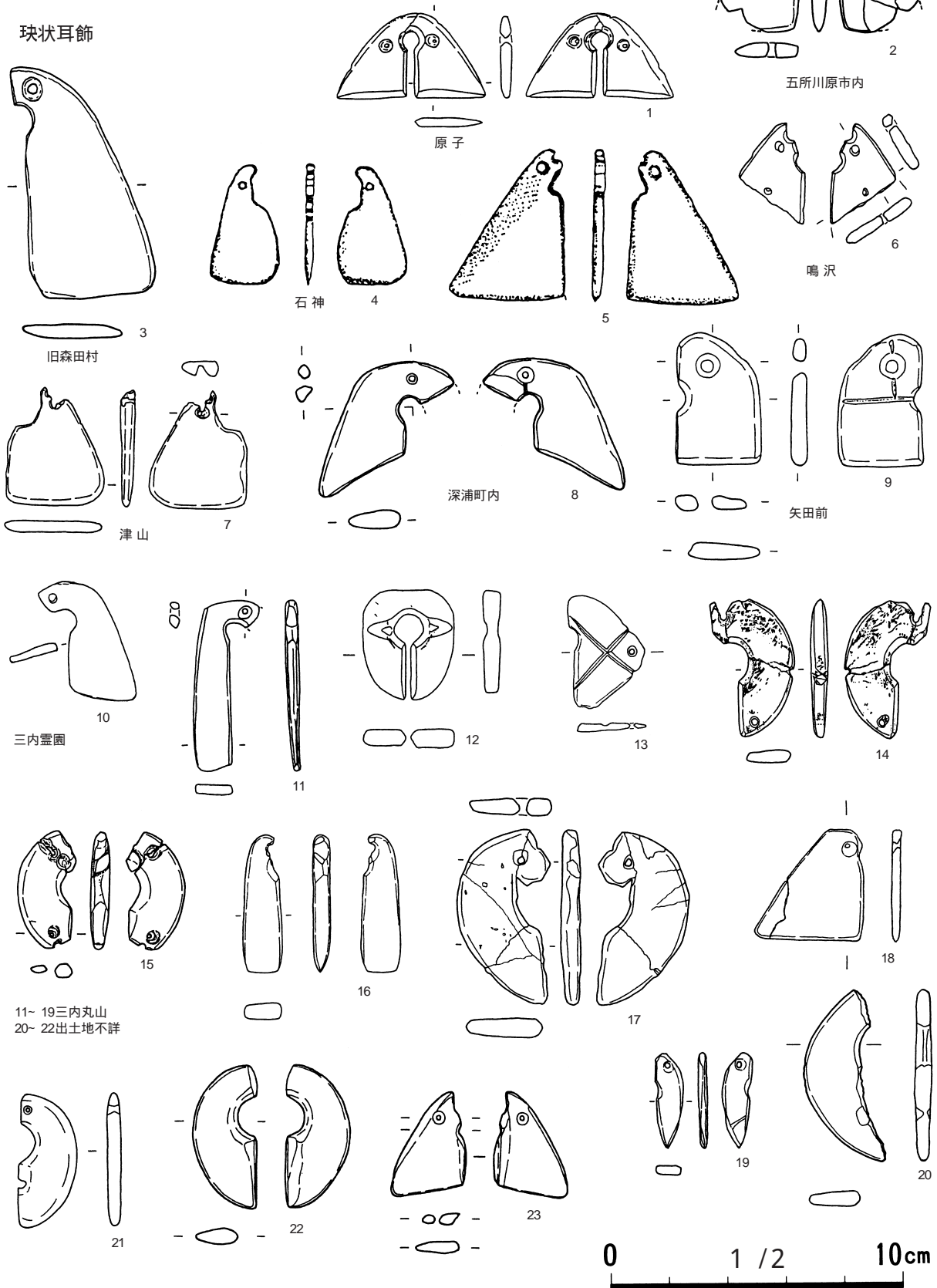


図版 31 (南部地域 27)

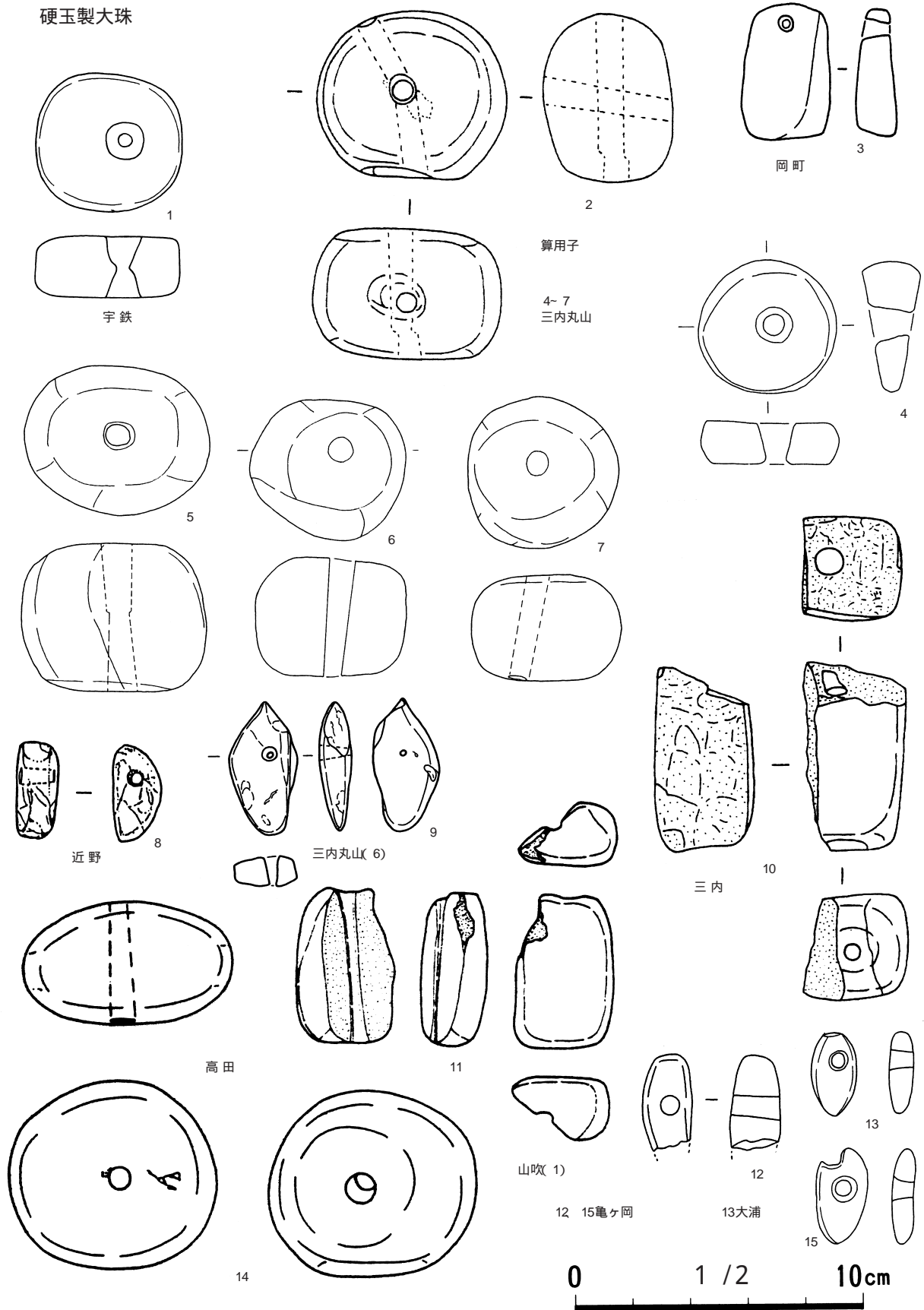


津軽地方 石製装身具

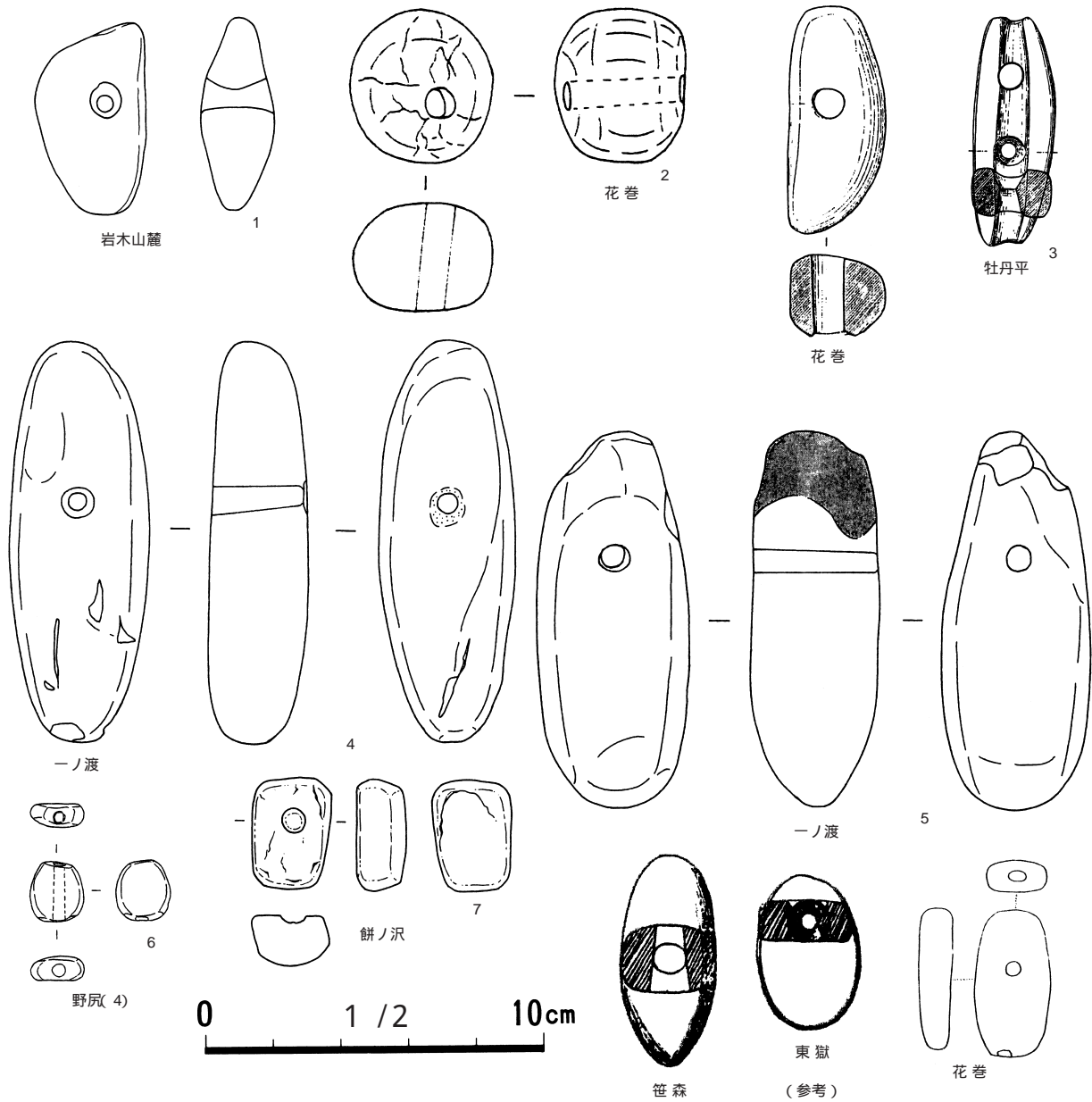
玦状耳飾



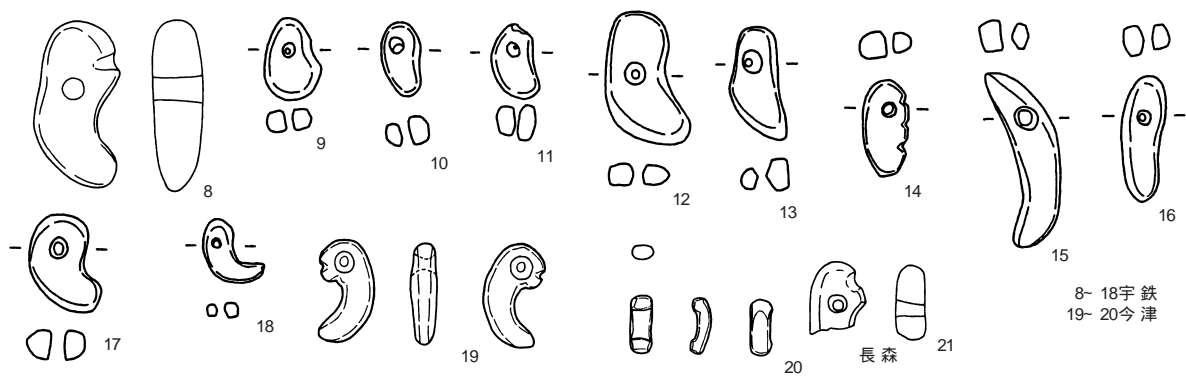
図版 33 (津軽地域 1)



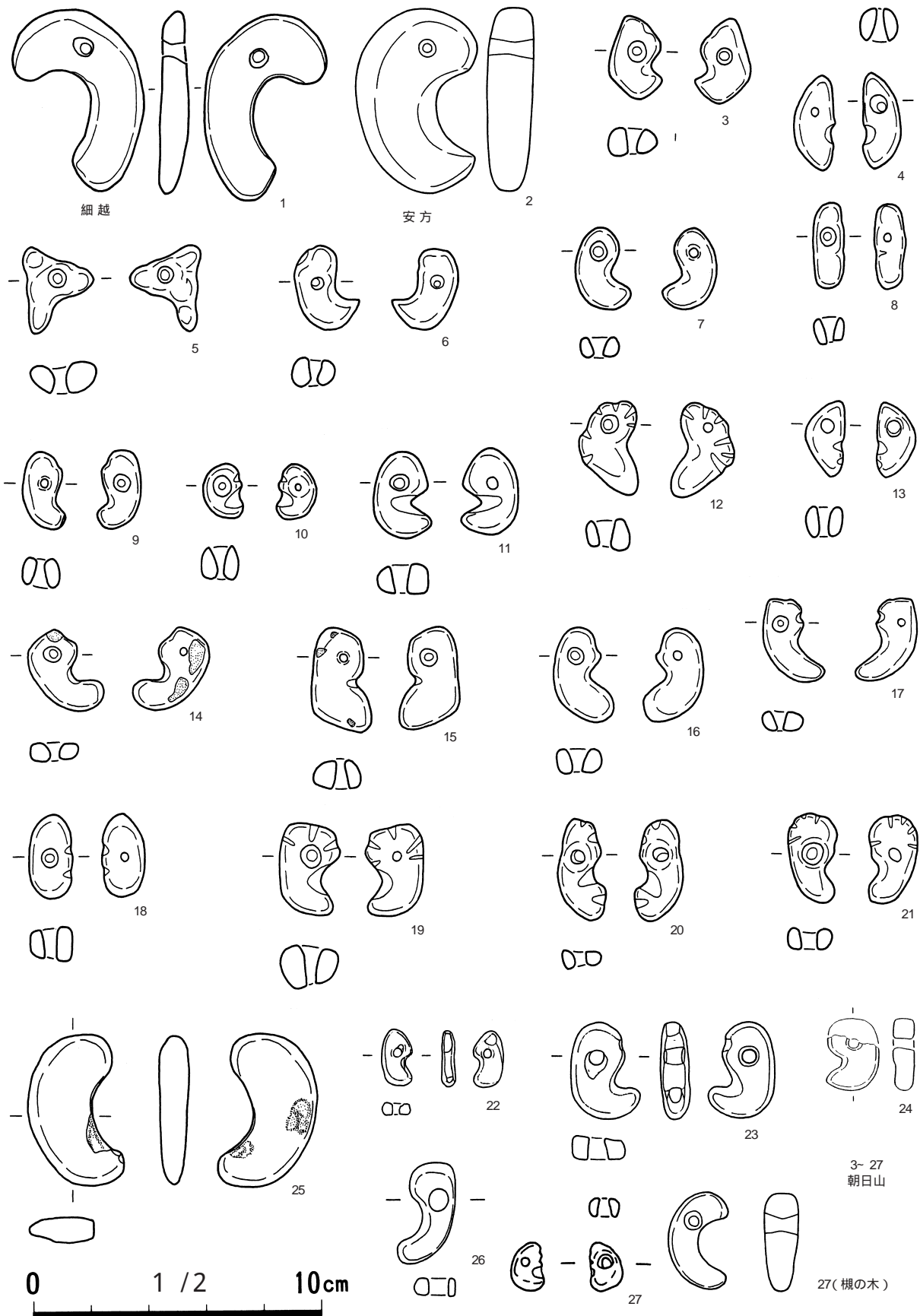
図版 34 (津軽地域 2)



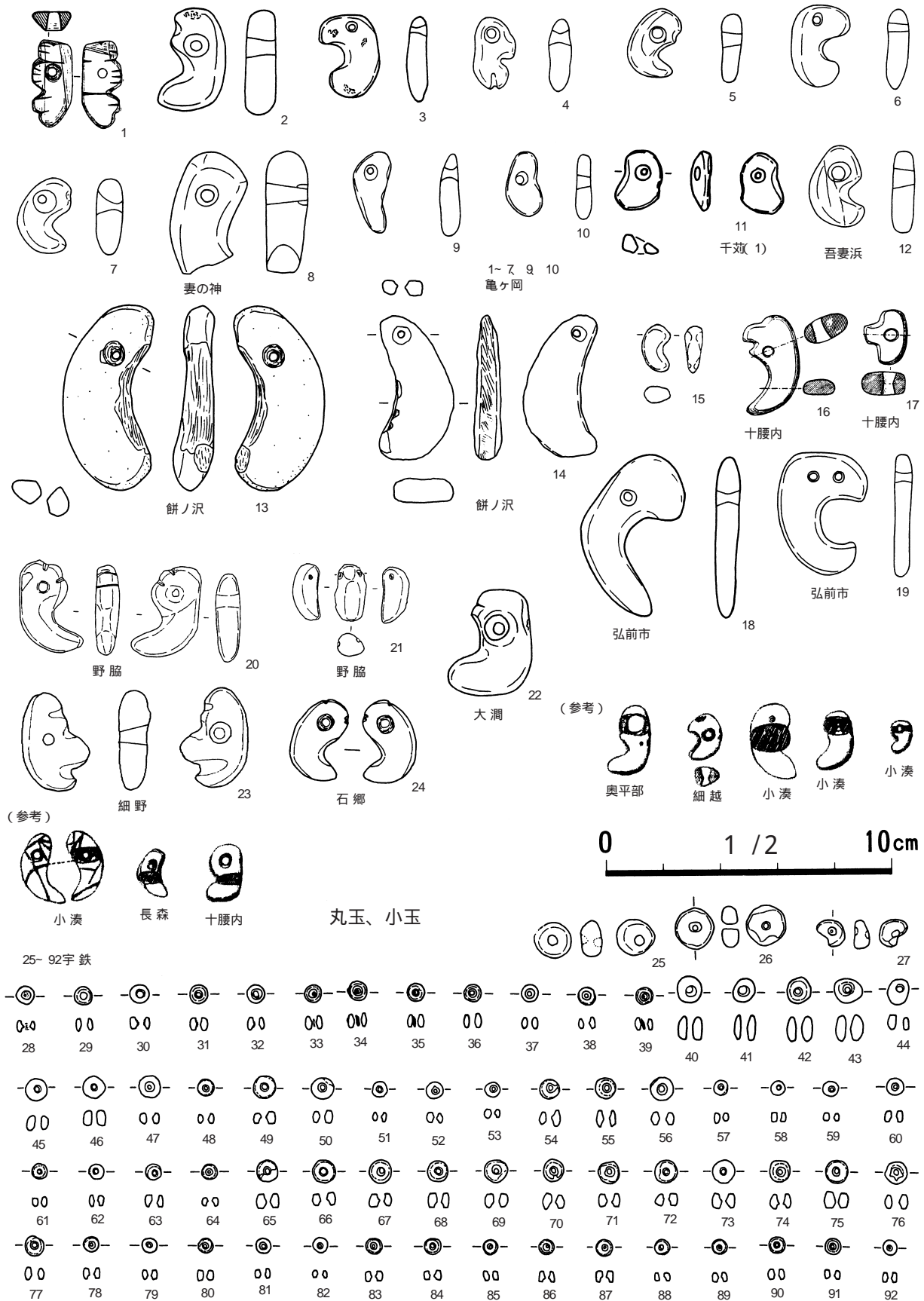
縄文勾玉



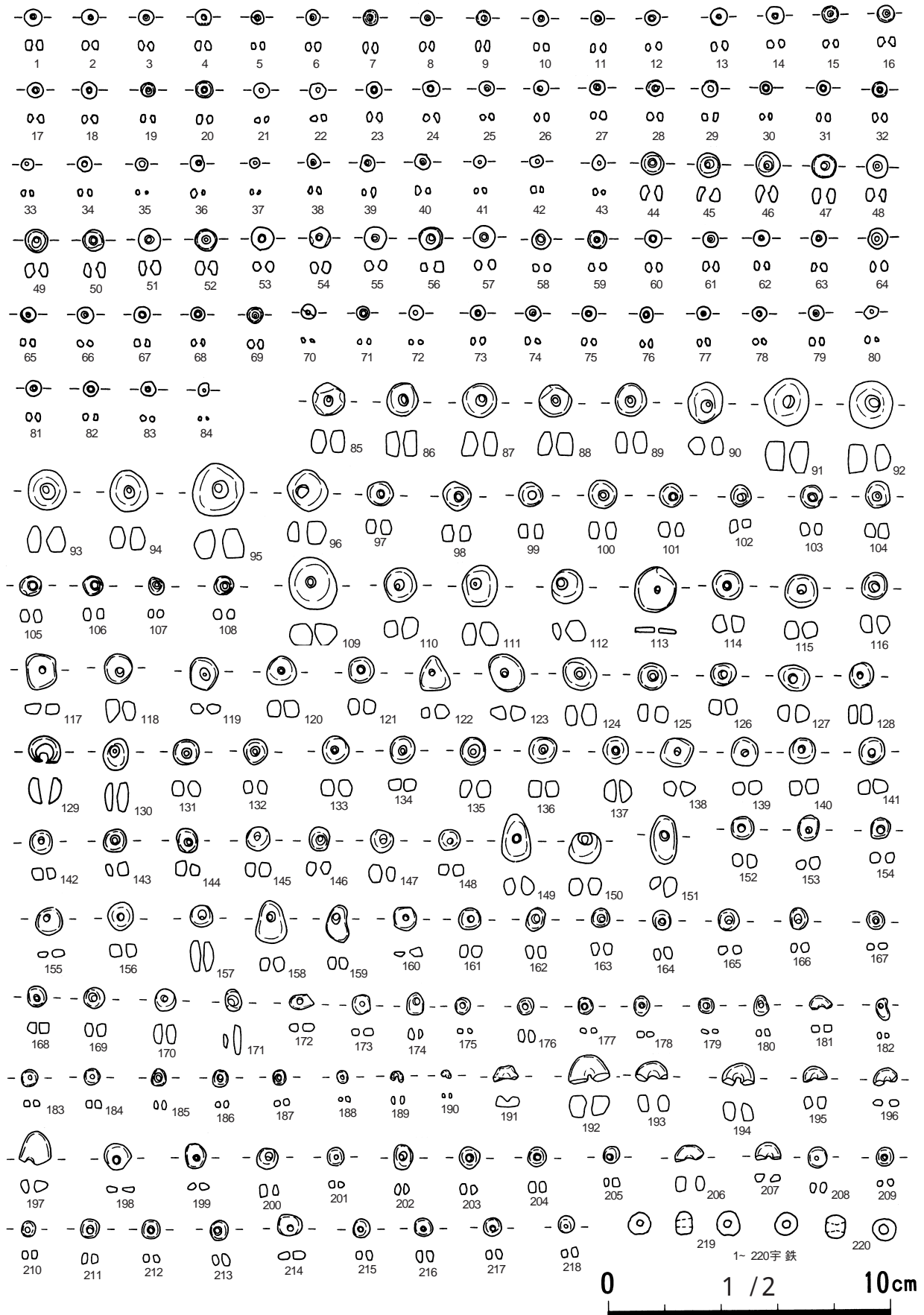
図版 35 (津軽地域 3)



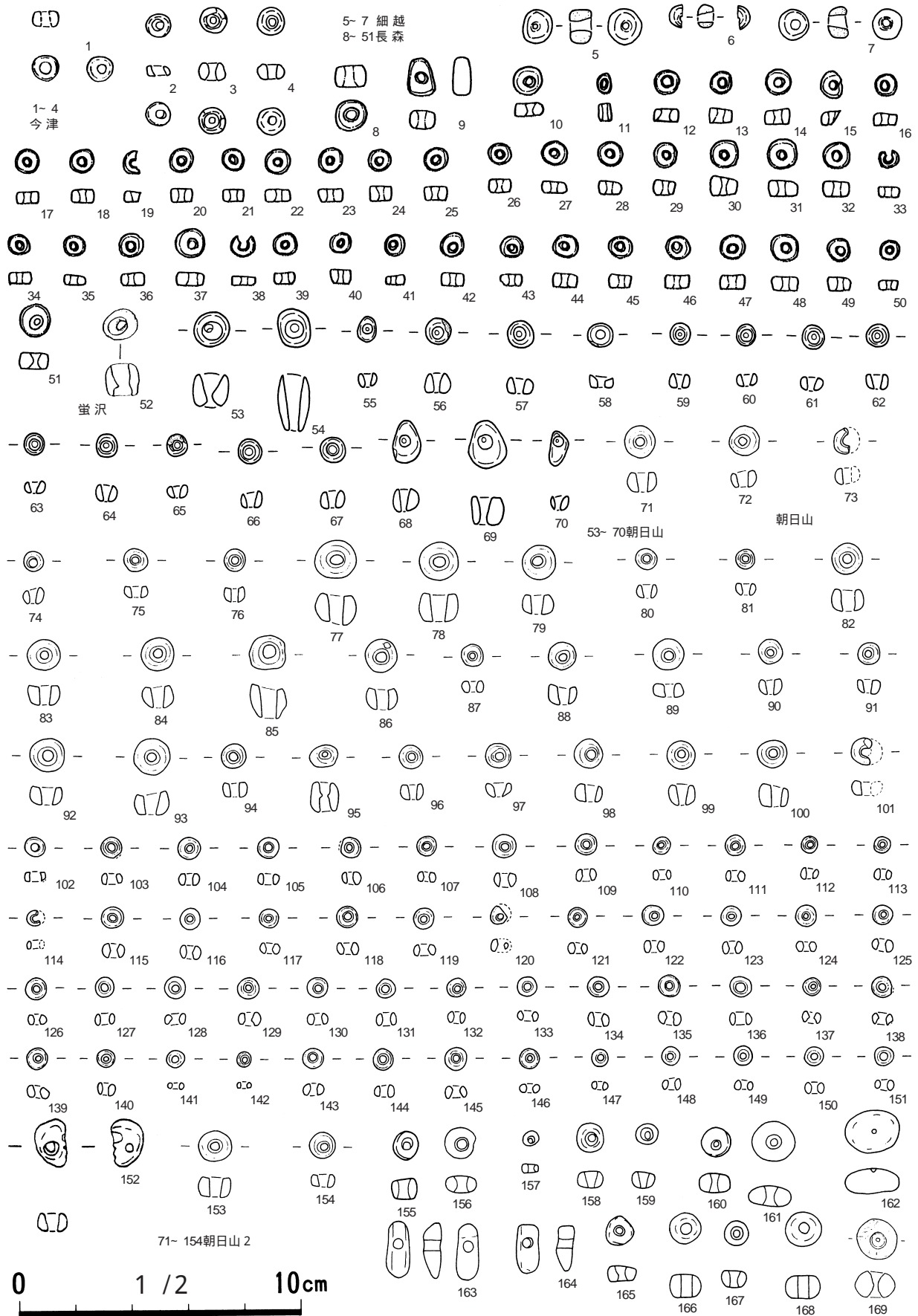
図版 36 (津軽地域 4)



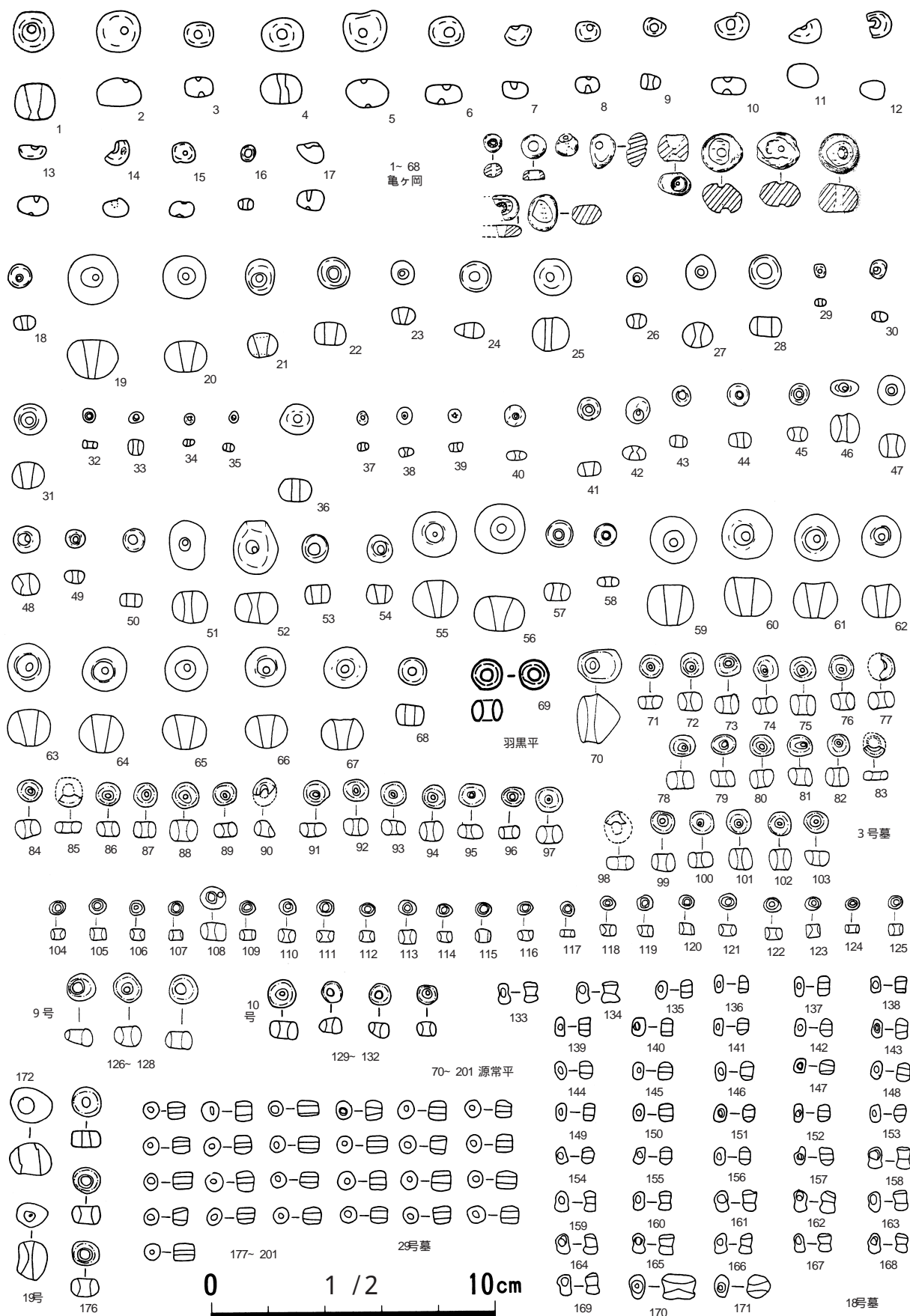
図版 37 (津軽地域 5)



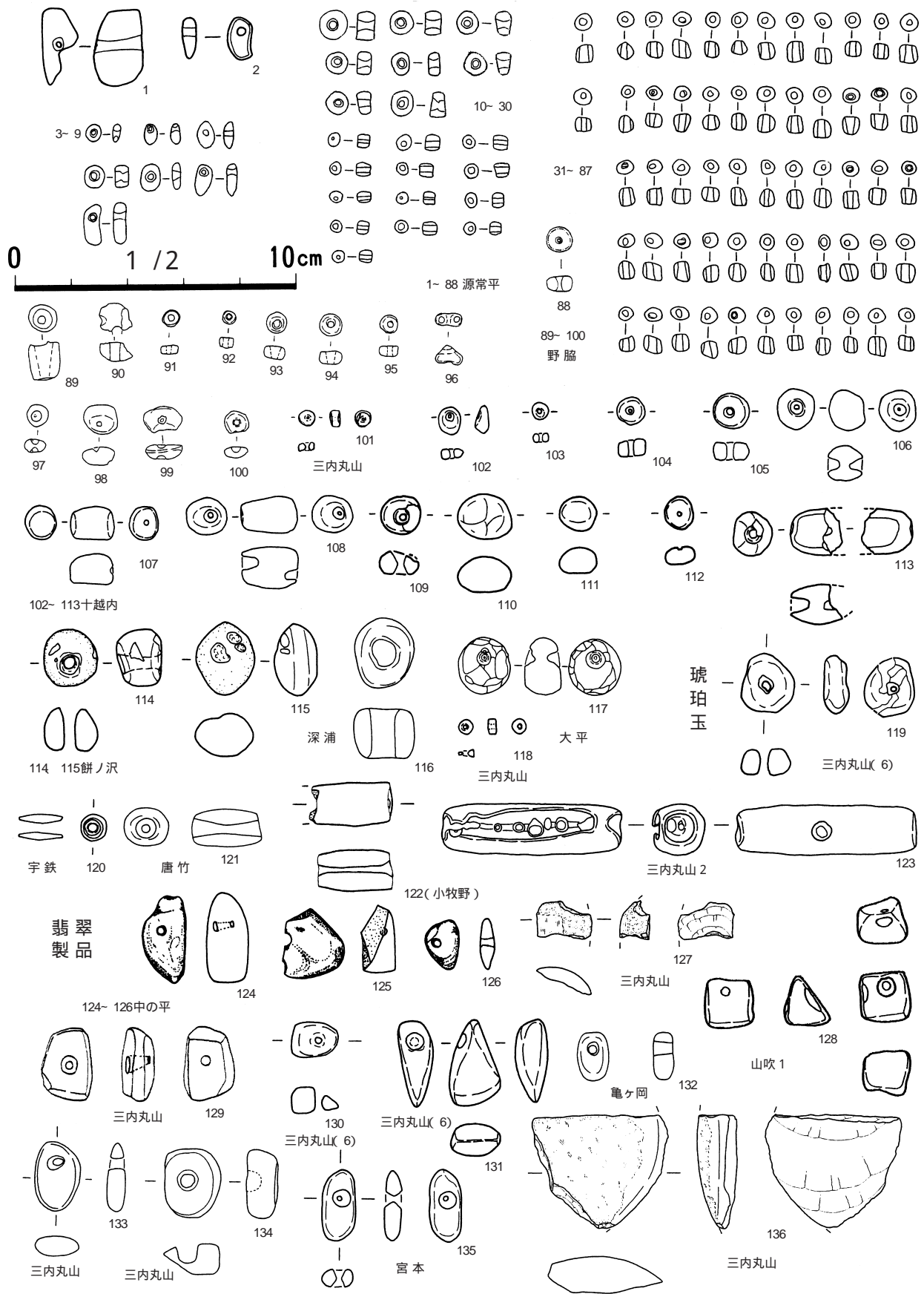
図版 38 (津軽地域 6)



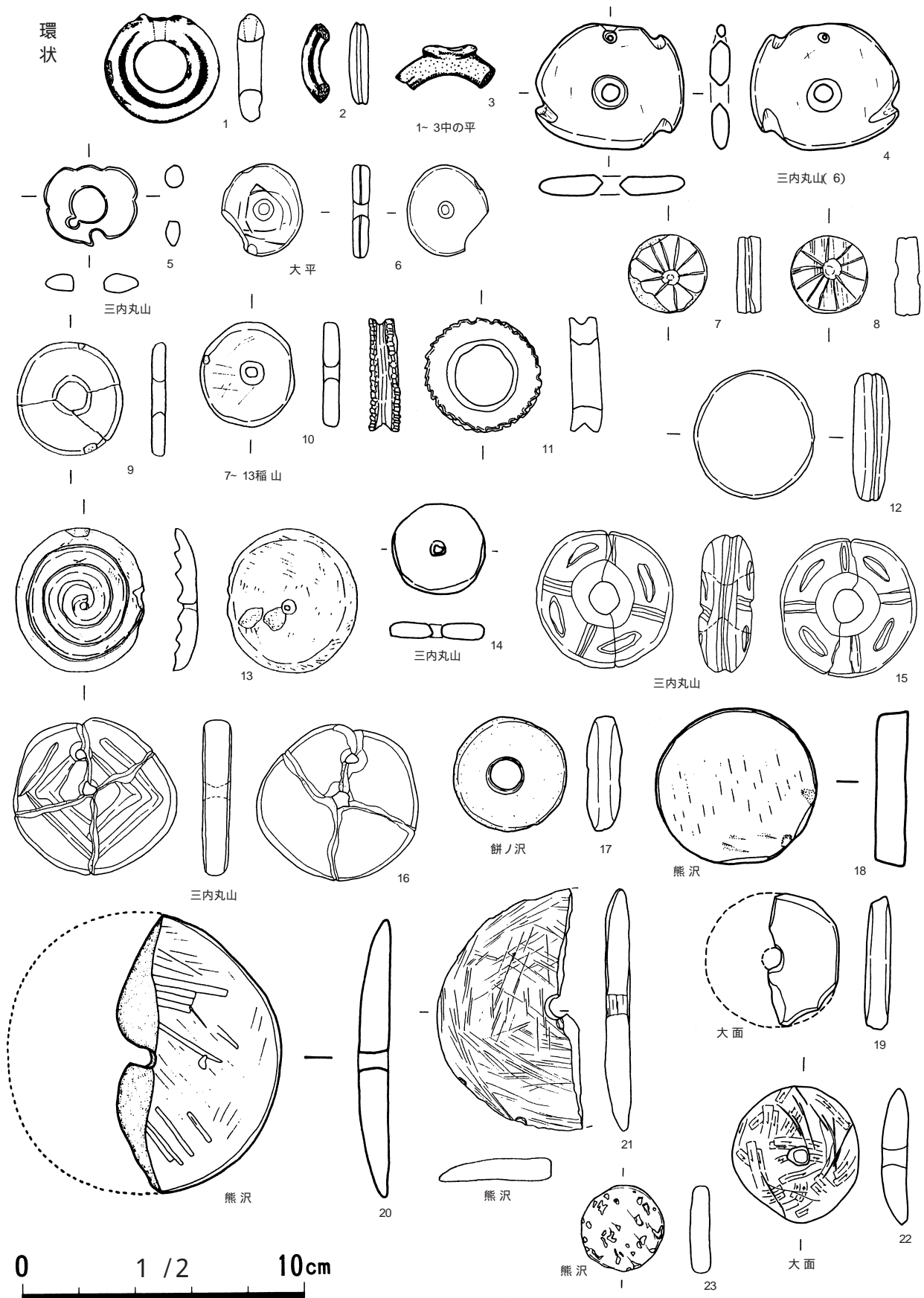
図版 39 (津軽地域 7)



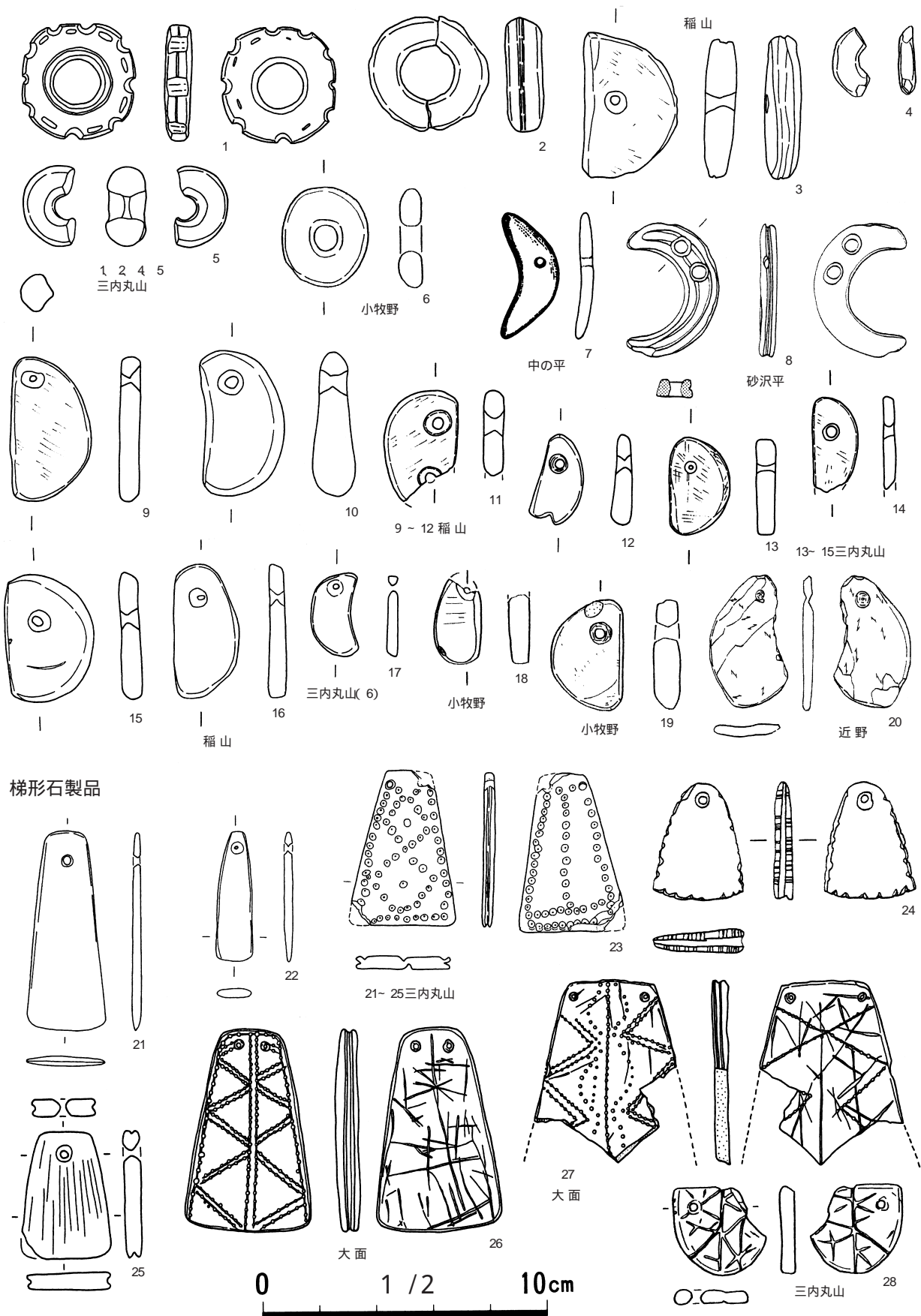
図版 40 (津軽地域 8)



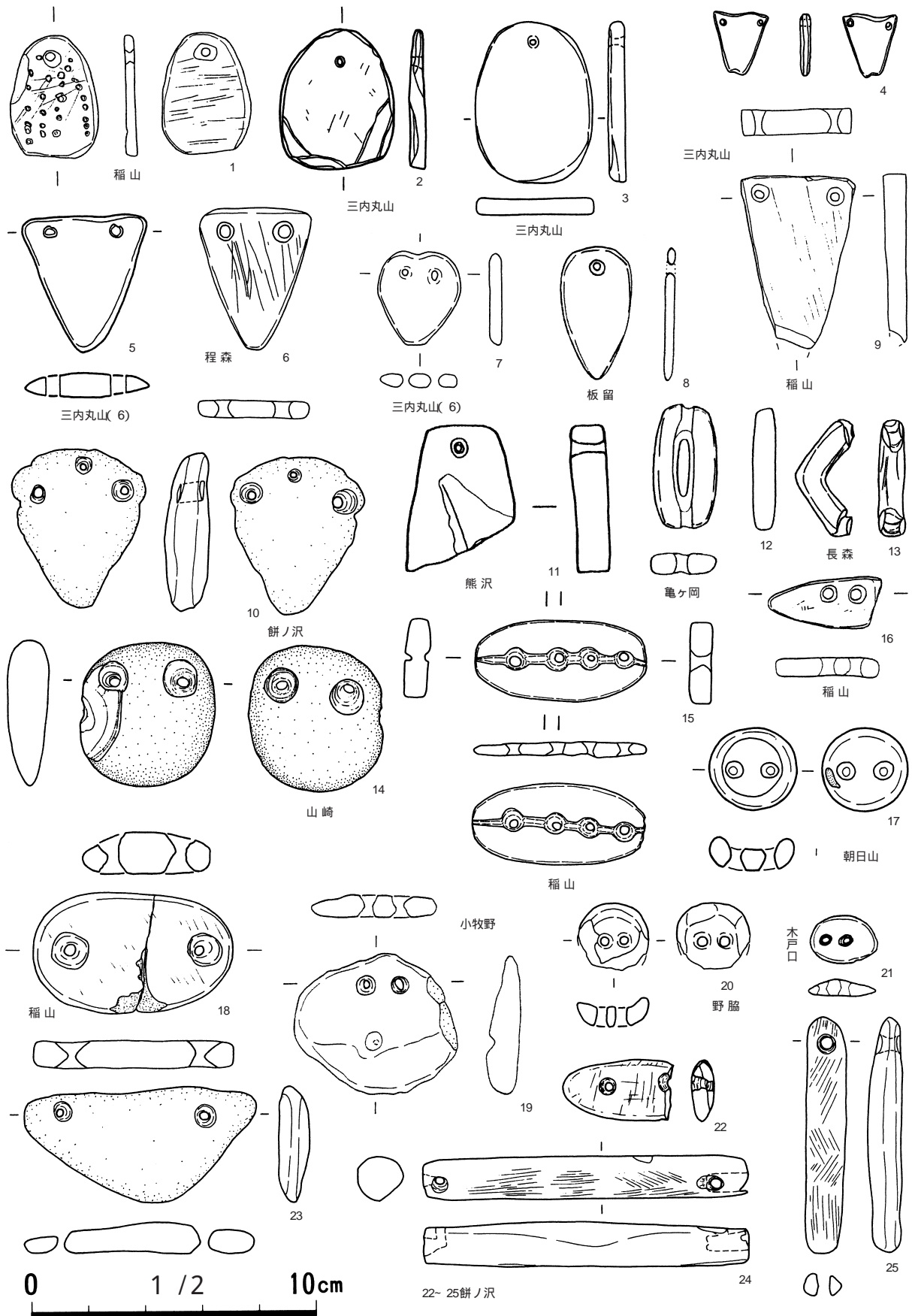
図版 41 (津軽地域9)



図版 42 (津軽地域 10)



図版 43 (津軽地域 11)

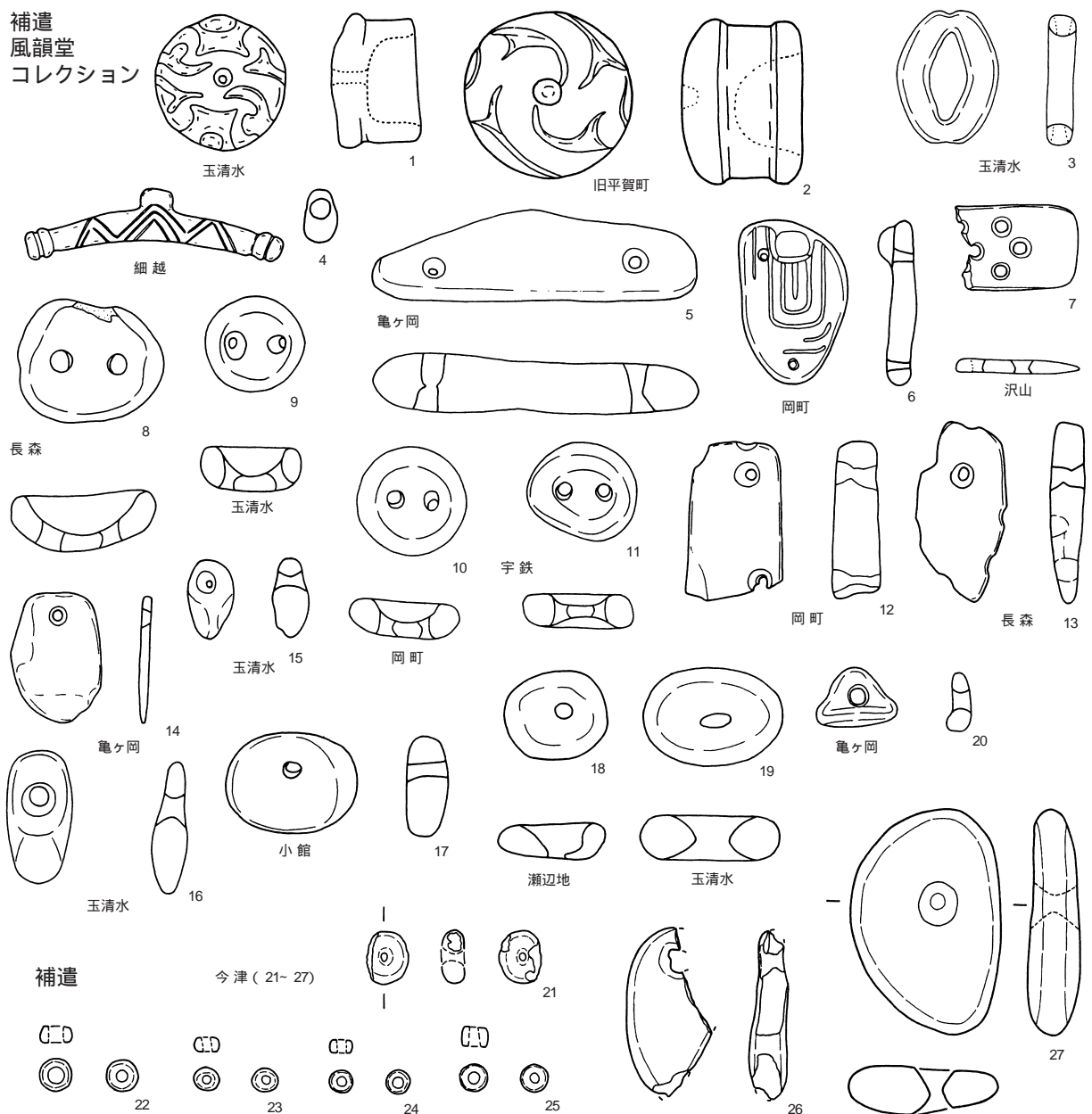


図版 44 (津軽地域 12)



図版 45 (津軽地域 13)

補遺
風韻堂
コレクション

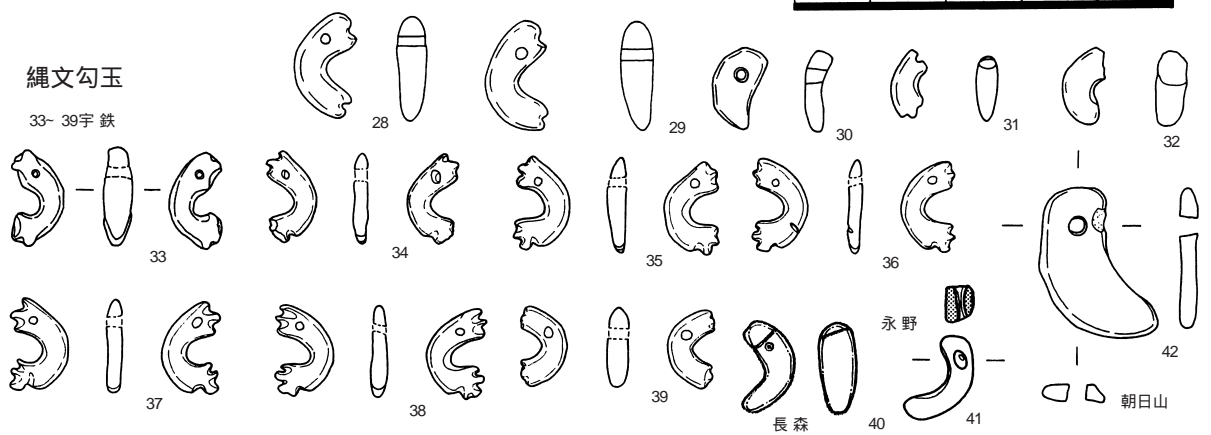


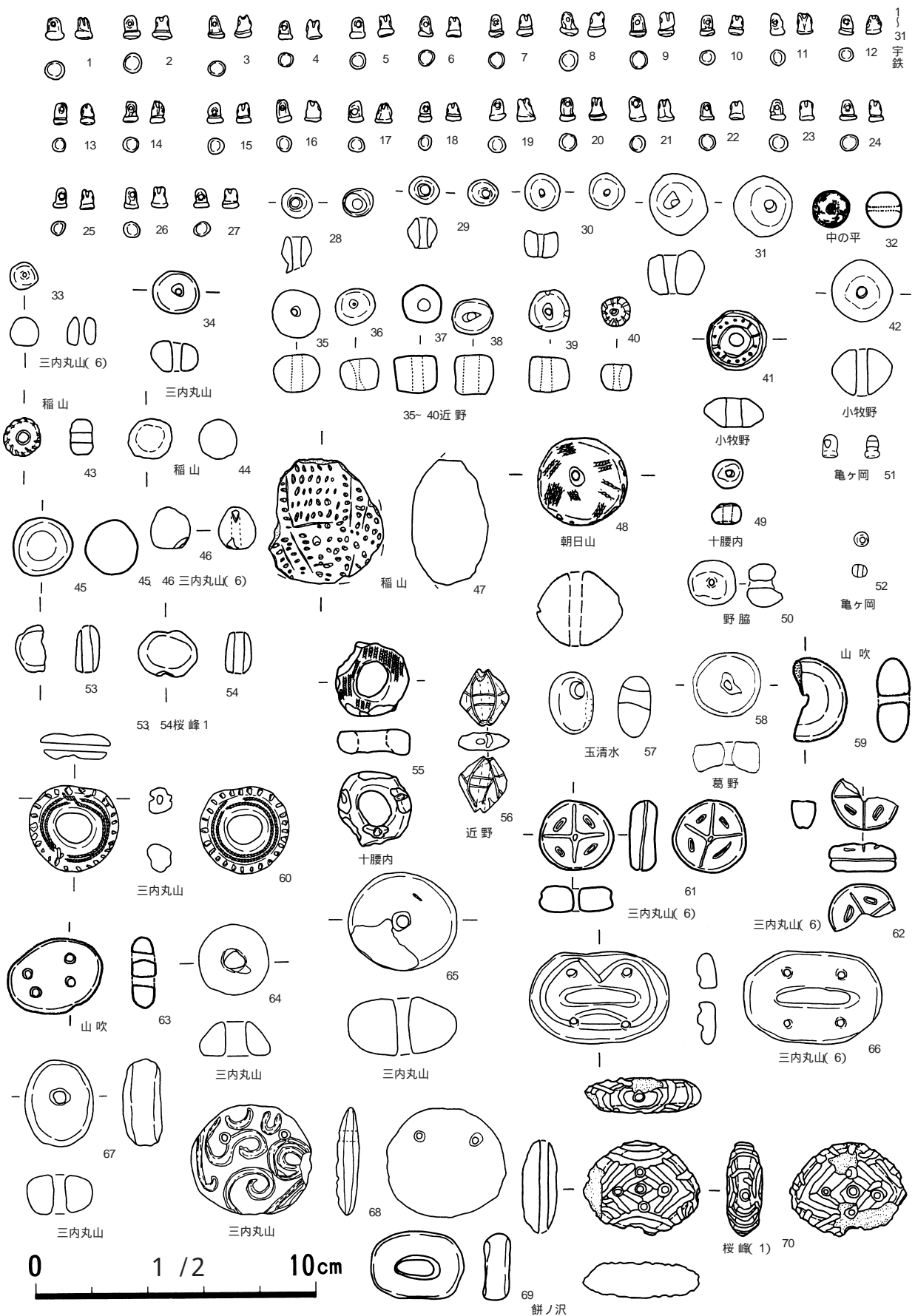
土製装身具

28~32 亀ヶ岡 (風韻堂)

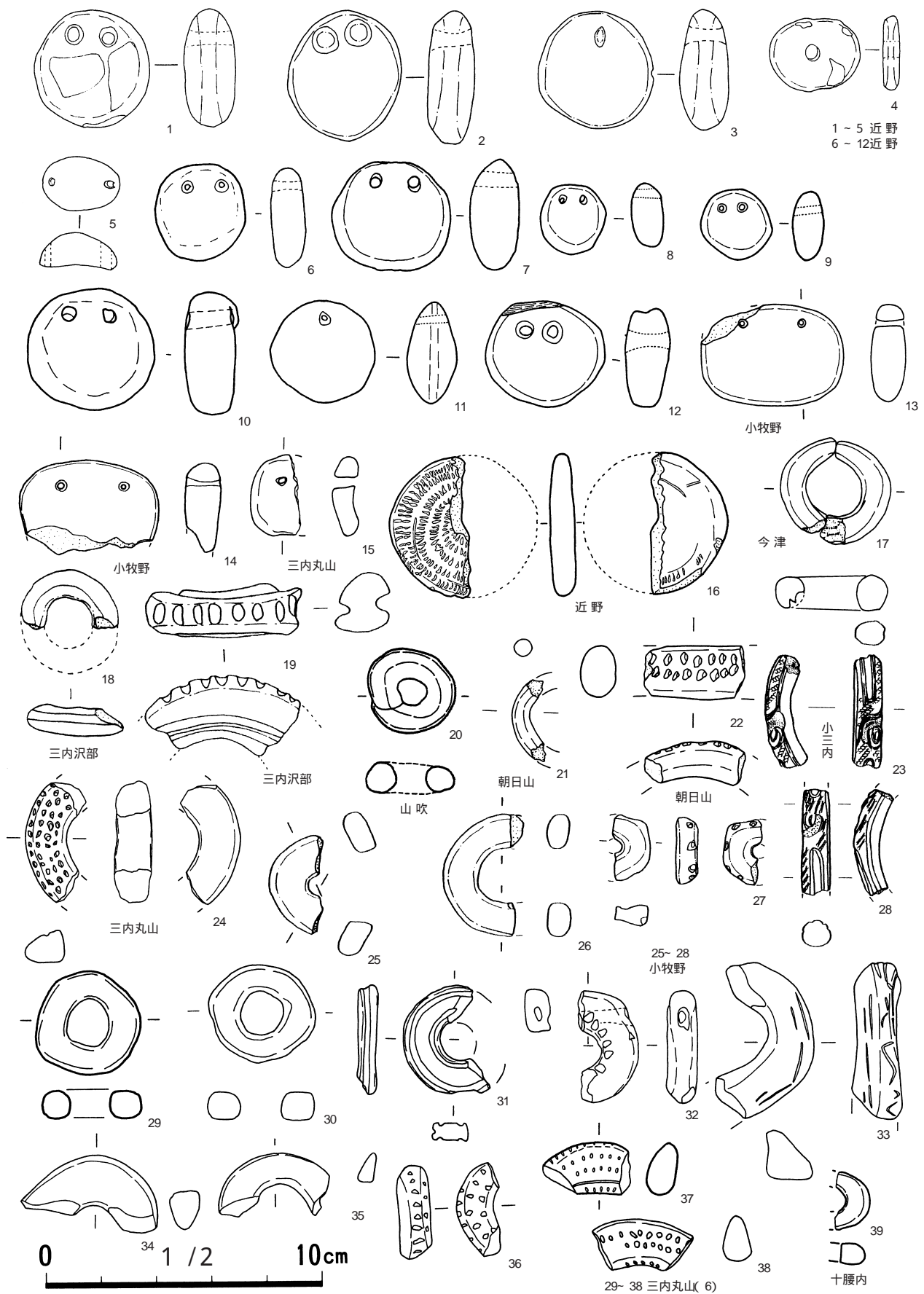
縄文勾玉

33~39 字鉄

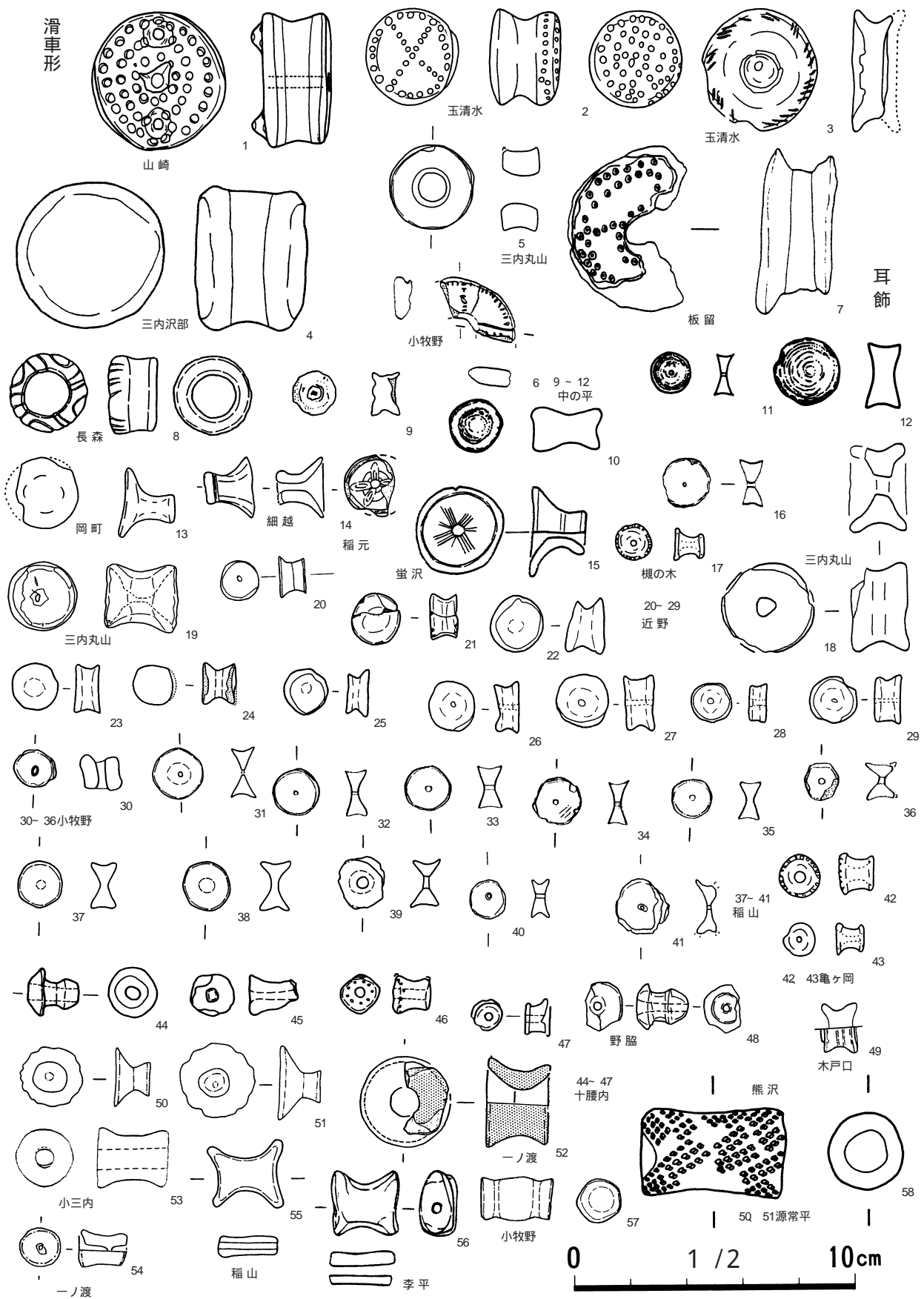




図版 47 (津軽地域 15)



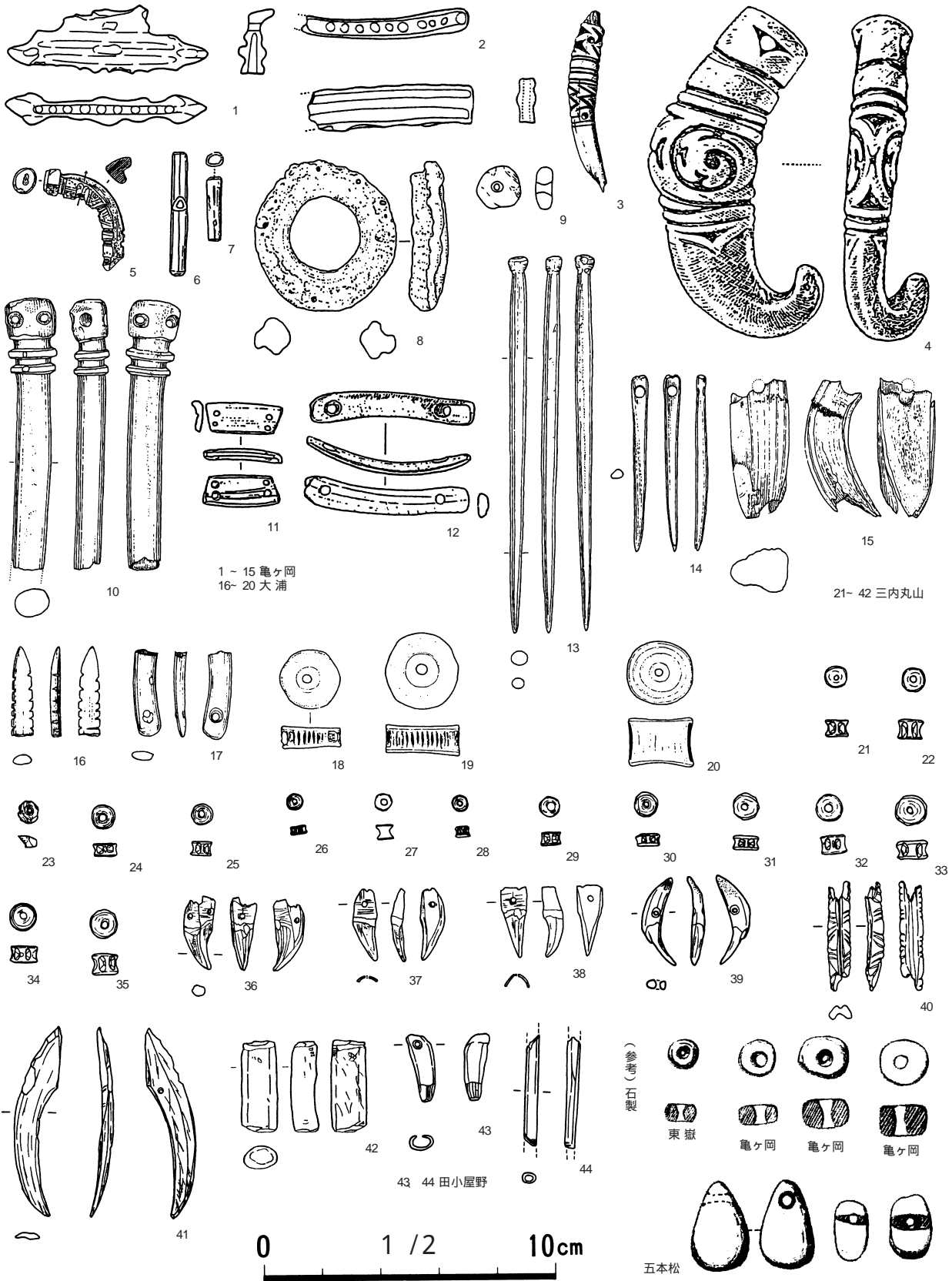
図版 48 (津軽地域 16)



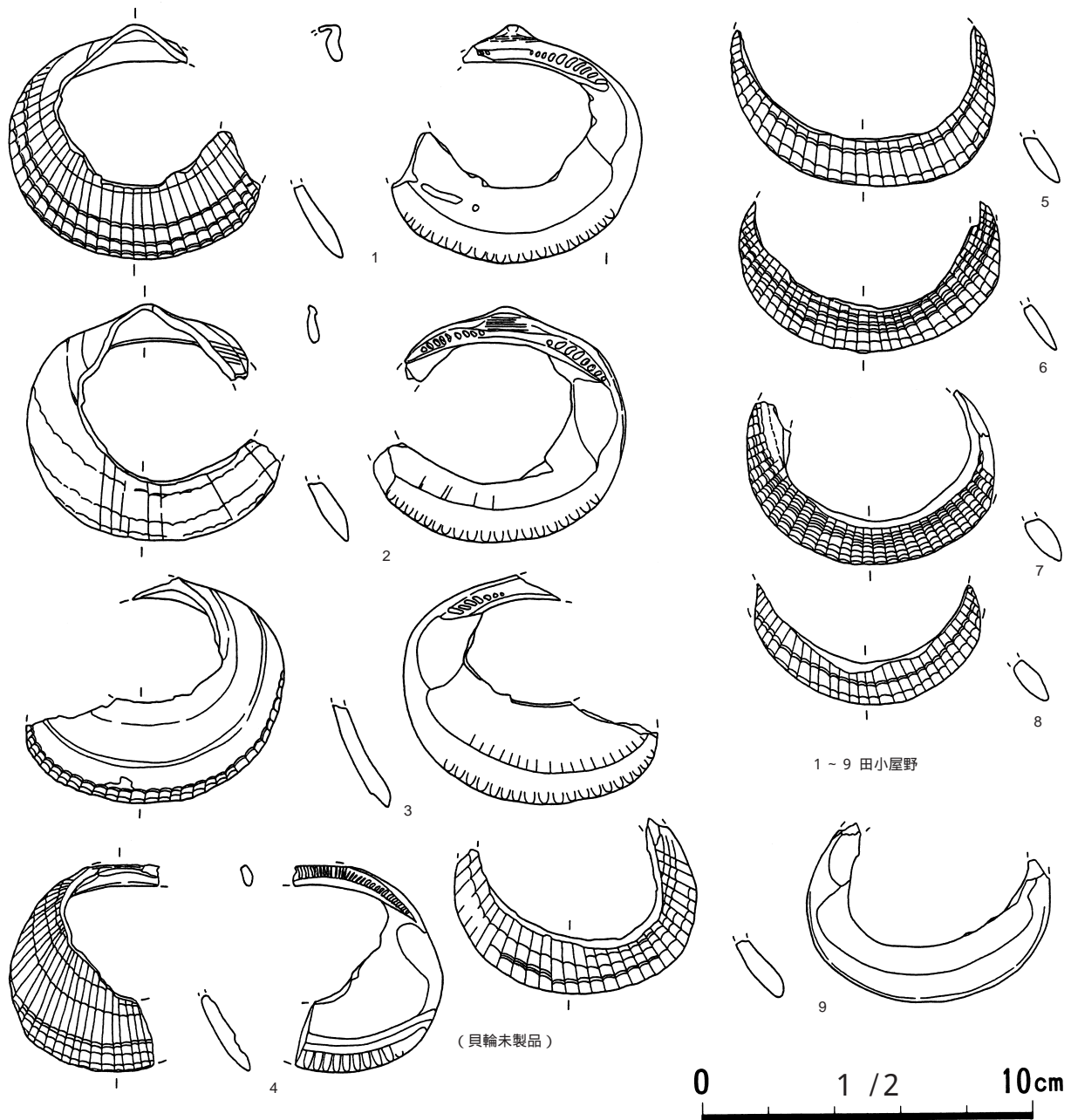
図版 49 (津軽地域 17)

漆製品

骨角製品



図版 51 (津軽地域 19)



図版 52 (津軽地域 20)

青森県埋蔵文化財調査センター 研究紀要 第1号

発行年月日 2006年3月10日

発行者 青森県埋蔵文化財調査センター
 〒038-0042 青森市新城字天田内 152-15
 TEL (017) 788-5701 FAX (017) 788-5702

印刷所 青森相互印刷株式会社
 〒038-0013 青森市久須志4丁目1-25
 TEL (017) 766-5161 FAX (017) 766-5162